

文部科学省

高等学校における次世代ニーズを踏まえた指導の充実事業

# 令和元年度研究成果報告

## 徳島県教育委員会

研究拠点校	徳島県立徳島中央高等学校
協力校	徳島県立徳島科学技術高等学校
協力校	徳島県立富岡東高等学校
協力校	徳島県立鳴門高等学校
協力校	徳島県立名西高等学校
協力校	徳島県立池田高等学校

# 研究成果報告書目次

## 【1】 事業計画

- 1) 研究指定期間3年間の調査研究のねらい ..... 1
- 2) 研究指定期間3年間の調査研究の概要 ..... 1
- 3) 研究指定期間3年間の調査研究の目標 ..... 2
- 4) 調査研究の具体的内容等 ..... 2
- 5) 調査研究の効果測定について ..... 4

## 【2】 令和元年度各学校における調査研究の概要

- 1) 就労指導 ..... 5
- 2) ソーシャルスキル向上指導 ..... 2 2
- 3) 学力向上指導 ..... 5 5
- 4) 特別な支援を必要とする生徒への指導 ..... 6 4

## 【3】 令和元年度までの成果と課題 ..... 6 8

## **【1】事業計画**

### **1) 研究指定期間3年間の調査研究のねらい**

平成27年度から平成29年度まで指定を受けた「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」において、支援・相談体制の構築、特別な支援において相談支援員・関係機関と連携した就労移行支援、それに伴う生徒の学習意欲向上・自己有用感の上昇を調査研究課題として取組を行い、一定の成果を得ることができた。しかしながら、本県独自調査「生徒の意識等に関わる調査」によれば、全日制課程と定時制課程の生徒数の割合(%)を比較すると、「自分にはよいところがある」という問いでは、16ポイント程度低く、「将来の夢や目標を持っている」という問いでは、10ポイント程度低い。全日制課程生徒と比較すると、まだ開きがあることから、「自分にはよいところがある」等の自己肯定・有用感を持つことは、「将来の夢や目標」へと繋がり、社会性の育成の第一歩となり得る。そこで、前事業の多様な生徒に対応できる支援・相談体制を充実させ、その上で生徒の学習ニーズに応じた学力やソーシャルスキル向上の指導方法等を確立し、生徒の自己肯定・有用感を上昇させることで、目標を持ち自ら将来を切り拓いていこうとする力を持った生徒の育成につなげたい。また、前事業において多くの指導方法が実施されたが、それらの汎用化の可能性についての検証は、まだ不十分である。その検証を引き続き行い、汎用化可能な教科・取組の評価については、パフォーマンス評価、ルーブリック評価等を研究し評価規準を作成することで、指導方法を確立し、定時制・通信制課程を有する他の全ての高等学校で活用可能にする。また、事業の成果を定時制・通信制課程の高等学校だけでなく、全日制課程の高等学校や特別支援学校へと、拡大普及に取り組む。

### **2) 研究指定期間3年間の調査研究の概要**

徳島県内の定時制・通信制課程で学ぶ全ての生徒を対象とする。徳島中央高等学校を研究拠点校、県内の定時制・通信制課程を有する他の全ての高等学校を研究協力校に指定し、前事業の多様な生徒に対応できる支援・相談体制を活用し、取組内容を充実・深化させ、指導方法を確立する。前事業での取組成果を生かし、有効性・有用性の整理、客観的な検証を更に進め、定時制・通信制課程生徒の抱える共通の課題及び対応策として汎用化の可能性について検討し、汎用化可能な教科等の評価についてはパフォーマンス評価、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価等の研究・検証を行い、これまで成果のあった取組、教科の指導方法を確立する。また、各学校での支援・相談体制の充実・深化策の検証を行う。

### 3) 研究指定期間3年間の調査研究の目標

調査研究の有効性有用性を整理，客観的に検証し，定時制通信制課程生徒の抱える共通の課題及び対応策として汎用化の可能性について検討する。数値化して評価することが適切でないソーシャルスキルトレーニング等ではパフォーマンス評価，ルーブリック評価等の手法を用いながら，各学校での支援・相談体制の充実・深化策の検証を行う。

目標を次のとおり設定する。

- (1) 就労・ソーシャルスキル向上・学力向上について指導方法の確立  
(各指導を受けた生徒対象)  
アンケート「役に立った」割合(研究当初から5ポイント上昇)
- (2) 本県独自調査「生徒の意識等に関わる調査」  
「自分にはよいところがある」 割合65%(H30は55%，R1は68%)  
「将来の夢や目標を持っている」割合65%(H30は60%，R1は51%)

### 4) 調査研究の具体的内容等

前事業「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」での取組成果を生かし，本事業では，次の3項目を実施する。

- (1) 就労・ソーシャルスキル向上・学力向上等の指導方法の確立  
それぞれの学校の特性を生かし，それぞれの生徒の状況に応じた就労，ソーシャルスキル向上，学力向上の指導方法，また，その評価について整理・検証する。
  - a 徳島中央高等学校定時制課程夜間部では，学校設定教科「職業」を開設し，生徒全員に対して就業体験を課し，インターンシップや就労を実務代替・学校外の学修の単位として認定する制度を導入しており，その評価に際して，更にパフォーマンス評価，ルーブリック評価，ポートフォリオ評価等の研究・検証を行う。
  - b 徳島中央高等学校定時制課程昼間部では，総合的な学習の時間，国語科等において「とくしま中央一座」，「絵本の読み聞かせ」等の活動により，自己の役割の理解や前向きに考える力といった自己理解・自己管理能力育成を図る。活動のねらいを明確にし，前事業での蓄積データから生徒の変容を分析・検証し，活動内容を深めていく。

- c 徳島中央高等学校通信制課程では、「学び直し」教材のデジタルコンテンツ化に取り組み、多様な学習ニーズに対応できる指導方法について研究を検討する。
- d 各研究協力校では、地域や人と関わる活動、職場見学会や外部講師による講演等を実施し、就労に対する意欲向上や離職率の低下及びソーシャルスキル向上を目的とした指導方法について検証する。特に、離職率が高いことについては、知事部局とも連携し、離職率を下げる対策を研究する。
- e 徳島科学技術高等学校、富岡東高等学校では、各種検定の資格取得に向けた効果的な書籍や出前講座の活用について研究・検証する。

## (2) 特別な支援を必要とする生徒への指導方法の確立

### a 支援相談員の活用

調査研究校では、特に発達障がい等何らかの支援を必要とする生徒に対し、支援相談員の助言を受け、個別の指導計画作成のほか、教科学習、総合的な学習の時間、特別活動、放課後支援等を総合的に組み合わせた社会への移行支援を目的とした指導方法は一応の確立をみた。近隣地域にある協力校（徳島科学技術高等学校定時制、名西高等学校定時制）への、支援相談員派遣の結果も踏まえ、3校が連携して指導方法について更に検討する。

### b ケース会議の開催

事案に応じて県立特別支援学校の巡回相談員、就労移行支援事業所ワークステーション未来の専門員等も参加し、生徒の実態に即した指導方法の検討を実施する。

## (3) 支援・相談体制の充実

### a 定時制・通信制課程支援・相談検討会議

キャリア教育専門家（鳴門教育大学大学院教授・准教授）、関係機関の職員からなる委員と管理機関担当（定通教育担当、キャリア教育担当等）、研究指定校教職員等からなる検討会議を開催。委員の指導を受け、本事業の計画検討及び実施評価を行う。

### b 定時制・通信制連絡会

県内の定時制通信制課程の教頭による連絡会で情報交換。個別の検証が必要な事案については、支援相談運営委員会と連携を図る。必要に応じてテレビ会議システムを活用する。

## 5) 調査研究の効果測定について

就労支援の指導方法については、インターンシップ参加者の割合、卒業時の就職率等を把握し、その推移により効果の分析を行う。また、就職先での定着率・離職率についても、知事部局と連携し把握・分析を行う。ソーシャルスキル向上・学力向上の指導方法については、各指導を受けた生徒の自己評価に加え、各教科等の評価（パフォーマンス評価、ルーブリック評価等）により、生徒の学習意欲の伸長を把握し、その推移により効果の分析を行う。特別な支援を必要とする生徒への指導方法についても、各指導を受けた生徒の自己評価、アンケートにより、効果の分析を行う。支援・相談体制については、相談生徒人数により実績把握を行う。自己肯定・有用感については、就労・ソーシャルスキル向上・学力向上の指導による複合的効果が考えられるため、各支援を受けた生徒の自己評価に加え、本県独自調査「生徒の意識等に関する調査」（毎年7～8月実施 2月結果公表）により把握、分析・検証を行う。

### 多様な学習ニーズの応えるための指導方法の確立

徳島県教育委員会

#### 現状と課題

- 人口減少の中で全日制と同じ生徒数は減少しているが、特別な支援を必要とする生徒の割合は増加している。
- 企業からの求人数は増えつつあるが、全日制と比較すると求人が少ない。
- 「生徒の意識等に関する調査」によれば、全日制と定時制の生徒数の割合を比較すると、「自分にはよいところがある」という問いでは、16%程度低く、「将来の夢や目標を持っている」という問いでは、10%程度低い。
- 徳島中央高校(定時制(夜・昼)、通信制)ではこれまでも研究指定を受ける等、多様な教育実践に取り組んでいる。
- 周辺の定時制課程で、地元と連携した取組等を行っている。(夜間進路訓練 地元書道家の作品製作支援 など)
- 研究指定校を除くと小規模の定時制課程夜間部5校となり、教員数が少ない。

**仮説** 多様な生徒に対応できる支援・相談体制を充実させ、その上で生徒の学習ニーズに応じた学力やソーシャルスキル向上の指導方法を確立し、生徒の自己肯定・有用感を向上させることで、目標を持ち自ら将来を切り拓いていこうとする力を持った生徒の育成につながる。

#### 対応策

支援・相談体制の充実

就労  
ソーシャルスキル向上  
学力向上

特別な支援を必要とする生徒への指導

指導方法の確立

- 支援・相談会議の開催 ・学歴経験者、専門家による專業実施への助言・專業に対する検証・評価
- ワーキンググループ ・必要に応じて、指導方法や評価について、討議
- 成果の普及 ・定時制通信制高校を結ぶテレビ会議システムを活用し、成果と課題を報告、研究協議を実施  
・成果報告会を実施し、全日制課程の高等学校や特別支援学校へも拡大普及
- 就労に対する意欲向上や離職率の低下を目的とした指導方法の確立  
  - 職業等 バイク整備 ものづくり 養育体験 ビジスマナー
  - ・職場見学会や外部講師による講演等を実施し、他の課題への汎用化の可能性について検討
  - ・知事部局との連携し、離職率を下げる対策(指導方法)について研究
- 学校設定教科「職業」 ・評価に際して、パフォーマンス評価、ルーブリック評価等の研究・検証
- ソーシャルスキル向上の指導方法の確立  
  - ・「とくしま中央一産」「絵本の読み聞かせ」等の活動の効果の研究・検証
  - ・パフォーマンス評価、ルーブリック評価による検証
- 「学び直し」教材のデジタルコンテンツ化  
  - ・多様な学習ニーズに対応できる指導方法について研究を検討
- 大学との連携をもとにした支援策の拡充  
  - ・大学生・大学院生による学習支援、放課後支援を行い、指導方法の在り方について考える
- 各種検定の資格取得にむけた効果的な書籍や出前講座の活用
- 相談支援員の活用  
  - ・拠点校に配置 ・協力校に巡回 ・活用校3校が連携して指導方法について検討する
- ケース会議の開催  
  - ・專業に応じて外部支援機関と連携 ・教職員の共通認識

定時制・通信制高校生徒の自己肯定・有用感向上

夢や目標を持ち、自ら将来を切り拓いていく生徒

## **【2】令和元年度各学校における調査研究の概要**

### 1) 就労指導

#### ① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

##### ○進路開拓について

##### 1 目的・ねらい

本校では、毎年企業から届く求人件数が、潤沢とは言えない状況にある。したがって、進路指導課が積極的に企業に出向いて行き、経営者や人事担当者との人間関係づくりからはじめ、本校生徒の良さやアルバイト経験があり、就労に向いているという特色を企業側に理解してもらい、求人獲得に漕ぎ着けてきた。今年度も、決して多いとは言えないが、それでも県内求人数において、平成24年度には年間3件しか来ていなかった求人が、今年度12月末現在では36件いただいている。アベノミクスによる経済効果やオリンピック景気等による緩やかな景気の回復と、本校進路指導課による地道な進路開拓が功を奏し、本校としては7年間で12倍の求人数を確保し、県外求人においても、445件という本校卒業予定者数に対して約5倍の求人数がいただけた。その県外求人数のうち、中には大手企業で県内が就業場所である上、転勤無しという条件が提示されている企業もあり、昨今の生徒・保護者からすれば、有り難い求人となっている。

けれども、求人が増えたからといって、その求人のみで希望が収まる生徒・保護者は少なく、就労する当事者側の進路希望に応えるためには、余念なく、進路開拓をしていく必要がある。

##### 2 内容

本年度は、県内外の企業に対して、5月から12月に5件の進路開拓を実施した。以下に報告をさせていただく。

日 時	開拓企業	生徒の希望職種	合否
5月21日(火)	(株)日本フネン	製造	受検せず
8月 5日(月)	(株)ヤマダヤ	店頭スタッフ	内 定
11月15日(金)	(有)井内電機	電気工事作業員	内 定
12月 3日(火)	東洋病院	医療事務	不採用
1月 7日(火)	(株)コール・ミー	販売スタッフ	内 定

##### 3 取組

上記5社は、生徒・保護者の要望があり、進路開拓を行った。県内企業の(株)日本フネン、(有)井内電機、東洋病院、(株)コール・ミーの4社は幾度か会社に足を運び、社長及び人事担当者と面談し、本校の特色を説明し、就職を希望する個々の生徒の特性や長所への理解を求めた。

#### 4 成果

上記5社について、5月中旬から年明け1月まで求人がもらえるよう売り込みを行った。結果、各人事担当者も概ね本校の存在意義や経済的・家庭的厳しさが有りながらも、学業とアルバイトの両立を果たしながら高校生活を送っている本校生徒への理解を示し、求人がいただける運びとなった。進路決定状況は上記の通りである。(株)日本フネンは、夏季休業中に4名の生徒が見学に行ったが、応募には至らなかった。東洋病院は1名応募したが、不採用となってしまった。他の3社は内定をいただいている。本年度、生徒を送れなかった2社の企業に対して、今後も繋がりを保っておきたいと考える。

#### 5 今後の課題

筆者は平成24年度より、進路指導課長として微力ながら職責を果たしてきたが、当時は殆んど県内からの求人が来ず、生徒・保護者の進路希望に応えられない状況があった。年度末を迎える時期が来ても僅か3件ほどで、本校定時制課程2部と通信制課程があるが、毎年100名ほどの卒業生を社会に送り出しているが、ごく一部の生徒しか就労に繋がられていなかった。出口指導をしっかりとしなければ、本校への入学生の確保も難しい状況になる。何としても県内求人数を増やす努力をし、出来得る限り正社員として働けるような進路保障をしなければならぬと考え、可能性を探った。進路開拓を進める中で、厳しい現実も多々あった。例えば、某大手企業の人事担当者に求人依頼をした際、本校の名前を伝えた途端、ぞんざいな物言いになり、聞く耳を持たない感じで会話を打ち切られた。

また、本校に求人をくれた企業から生徒の履歴書を渡したところ、人事担当者から、その応募生徒が成人している理由を問い詰められ、筆者が本校は定時制高校なので、さまざまな理由から学び直しを目的として在学していること、本校に入学して来る生徒の状況を伝えると、「訳ありなんやな。ウチは訳ありな人間は要らん」と言われ、試験を打ち切られた事例もあった。進路指導課長の重責を担って来た8年の間、生徒がアルバイトをするにしても、露骨に「中央高校は要らん」と理由も告げられずに、働くことを拒絶された事例も沢山見てきた。

そのような本校に対する実態的偏見に対し、社会に根ざされた意識として受け止め、その意識の払拭に向け、ゴミゼロキャンペーンや人形劇団「とくしま中央一座」の取組を学校挙げて推進し、外部に向けて発信し続けて来た次第である。畢竟、本校の知名度も格段に上がり、マイナスイメージも薄れて来ている。

次年度に向け、生徒・保護者の進路希望を伺いながら、それ等要望に寄り添える進路開拓をして参りたいと考える。



## ② 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

### ○ 「職業基礎 A」 から 「職業基礎 B」 への発展的な学習

#### 1 目的・ねらい

職業に従事することを目標とし、各職種に必要とされる基礎的、基本的な知識と技術について理解させ、正しい勤労観、職業観を育成する。また、すでに就業している生徒も、他職種の体験を通して、より深い自己理解や将来設計について考えさせる。さらに、企業と学校との連携を強化し、生徒の就業の実現をはかる。

#### 2 内容

「職業基礎 B」は、「職業基礎 A」で学習した内容の定着を図るため、実践的な学習を中心とする。実習的な学習や、プレゼンテーション、外部講師を招いての全体学習、就業体験を通して、職場に必要なスキルやマナーを身につけさせる。また、「職業基礎 B」の実践から「職業基礎 A」の内容を見直し、修正を加える。

#### 3 取組

##### ① 就業体験に関する内容

企業研究・企業訪問の心得・勤務中の態度・就業体験・お礼状作成・体験発表

##### ② 職場で求められるスキルに関する内容

電卓実習・ビジネス文書作成の基礎  
(エクセル・ワード・パワーポイント)

##### ③ 就職活動に関する内容

進路ノートの活用 (自己分析・高校生活の振り返り・履歴書作成・面接練習)

##### ④ 外部講師招聘

中小企業家同友会に依頼し5人の社長(小売業, サービス業2社, 製造業, 建築業)を講師に迎え, 講演と班別の討論会を行った。

講演では, 社長になるまでの苦労や心がけたこと。それぞれの企業が求める社員像仕事をすることなどのお話があり, 生徒へ勇気を与えるエールもあった。



その後、班に分かれ「仕事をする意義」「社会に出るための心構え」などについて討論し発表を行った。班ごとに発表することで違った考えや別の角度で討論した内容などに触れ、自分自身の考えをさらに深めることができた。

### ⑤ 昨年度実施したルーブリック評価

#### 「マルチ基礎」及び「職業基礎」の評価

※下の欄に年度当初（5月頃）と年度末（2月頃）の自分を評価1～5を記入してください

学年 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

項目 評価	マルチ基礎				職業基礎		日頃の取り組み	
	国語(漢字)考え解く力	数学を考え解く力	マルチ基礎の取り組み方	相談支援員や大学院生とのコミュニケーション	職業基礎についての興味関心	職業基礎への取り組み方	他者との関わり	自分をj知る
1	自分で解くことは20%未満	自分で解くことは20%未満	必要なことはわかっているが懸命には取組めない。	自分の方から話しかけることができない。	授業内容が社会に出て役立つかが分からない。	自分の将来について展望が持たず熱心に取り組めない。	話しかけられても返事が十分できない。	気によって取り組み方にムラがある。
2	自分で解くことは40%未満	自分で解くことは40%未満	友達や先生に近づく質問はできる。	相談支援員、大学院生から話しかけてもらえる。	仕事をする状況でないため興味関心が乏しい。	授業態度は受け身であり、授業内容を理解できない。	親しい人とはあいさつや会話はできる。	何をすべきかわかっているが、行動に移せない。
3	自分で解くことは60%未満	自分で解くことは60%未満	積極的に友達や先生に質問している。	相談支援員、大学院生から話しかけられる。	社会に出たら知識が役に立つことを理解している。	知識を習得するため積極的に取り組んでいる。	必要な場面であいさつや受け答えができる。	先生や先輩からの指示を受けている。
4	自分で解くことは80%未満	自分で解くことは80%未満	できるだけ辞書や辞書を引かないで調べることができる。	相談支援員、大学院生や放課後体育館で話しかけてもらえる。	マナーや一般常識を知りたい機会を意識的に取っている。	自分の進路に関係なく積極的に取り組んでいる。	校内の全生徒・先生と会話を楽しむことができる。	自分で学習活動の計画を立てている。
5	自分で解くことは80%以上	自分で解くことは80%以上	テキストをやり取りだけでなく復習もしている。	相談支援員、大学院生と談笑する機会を築けた。	学習内容を理解し見つけ、生活改善に繋げた。	授業内容を応用し、日常生活で実践的に取り組んでいる。	地域の人、職場の社会の一員であることなど良好な人間関係を築いている。	将来の目標を掲げ、計画的に行動している。
年度当初	2.92	2.85	2.77	2.69	2.92	2.85	2.77	2.91
年度末	3.00	2.89	3.23	3.54	3.54	3.54	3.54	2.92

職業基礎への取組の高さは、「将来役に立つ」「自分のためになる」ということがわかっているからである。知らないことがわかるおもしろさ、一つ一つのマナーについての理由、知識が増えていく喜びも感じていると思われる。

「職業基礎についての興味関心」について年度当初2.92ポイントが3.54ポイント。「職業基礎への取り組み方」についても年度当初2.85が3.54ポイントと項目の中で大きい伸びを示していることからこの授業が有意義であることがわかる。

また「他者との関わり」について年度当初から0.77ポイント上昇していることは、学年の枠を取り払い学校全体で、いろいろな行事等を実施し、発表する機会や班別に行動させていることが実を結んでいると考えている。

### 4 成果

「職業基礎A」で学習した内容を実践する場面がたくさんあり、既習内容の定着を図ることができた。「職業基礎B」の中で実施している実習体験活動では、オープンキャンパス、企業見学、就業体験に100%（前年度88%）の生徒が参加した。こうした体験を通して、就職や進学に対する心構えを養うことができ、その実現に向けて前向きな姿勢が身についてきた。また、自分の適性にあった進路選択の大切さを実感し、将来について真剣に模索する生徒も現れている。

以前は、「高校生だから働かない」「まだ働くのは早い」「働くくらいなら家でゲームをしたい」などの生徒が多く、昼間仕事（アルバイト等を含む）をしない者が何人もいた。しかし、「職業基礎」の授業を通して、就業意識が高まることで、昼間に仕事（アルバイト等を含む）を経験した生徒の割合は平成29年度は約60%、平成30年度は約80%、本年度は85%と増加している。

また、前回の検討委員会で委員から「職業基礎」の授業を受けて、社会に出た際に役だったことがないかについて追跡調査をしてはどうか。という提案を受け卒業生に連絡を取って確認してみた。

#### 【職業基礎の授業を学んだことで役に立ったこと】

- ・電卓の使い方（MC，M+，MRのボタン）が職場で役に立った。
- ・お葬式に行ったことがあり、冠婚葬祭の授業内容が役立った。
- ・就活前の事前指導で、（礼儀・マナー等）ある程度学んだ内容だったのですぐに頭に入ってきた。
- ・パソコンのビジネス文書作成が役に立った。
- ・ワードとエクセルがちょっとでもできると、文書や表を作る時にとっても便利で、仕事にも役立っている。

#### 5 今後の課題

本校と企業との連携がまだまだ十分とは言えない。全教員での企業開拓や企業訪問など、学校全体で取り組むことが必要である。また、生徒が多様化する中で、それぞれに合った就業体験先を確保することが難しい。今後は、中小企業家同友会との連携をさらに深め、就職活動につなげていきたい。

### ③ 徳島科学技術高等学校定時制課程

#### ○資格取得対策のための参考図書の活用について

##### 1 目的・ねらい

本校は、本県唯一の定時制課程工業科であり、ものづくりの基礎を学ぶ専門高校であるが、就労意識が希薄である生徒も少なくない。そこで、各種資格・検定試験参考図書を購入し、これを用いた補習で資格の取得をさせ、就労意欲を喚起させる。

##### 2 内容

資格・検定・基礎学力向上に関する次の14冊の図書を購入した。

乙種危険物取扱者（2種類）、情報技術検定（2種類）、日本語ワープロ検定（2種類）、情報処理技能試験表計算（2種類）、第2種電気工事士、2級建築施工管理技士、計算技術検定、基礎製図検定、ボイラー技士試験（2種類）

### 3 取組

#### ①危険物取扱者試験

##### ・危険物取扱者とは

消防法では火災の危険性が高い物質を「危険物」として指定している。この資格を持つものはその取り扱いを行うことができる。一定数量以上の危険物を貯蔵し、または取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設には危険物を取り扱うために必ず危険物取扱者を置かなければならない。そのため就職後の実業務で用途が広い国家資格である。職種によっては取得が必須なものもあり、就職後に取得が義務の場合もある。したがって、在学中に有資格者となることは就職採用に有利となる。

##### ・受験の背景

本校は工業科でありものづくりの基礎を学ぶ専門高校であるが、生徒自身にその意識が希薄な場合がある。危険物取扱者試験は化学系の専門知識を必要とするが、国家資格としては比較的容易で本校各工業類の生徒が取り組むには無理のない資格である。また、就職に繋がりやすい資格として、目的意識を持ちやすい利点もある。工業系専門高校で学んでいく上での意識付けとしても最適であることから、入学直後から全ての生徒に周知し、学習及び受験を勧めている。

#### ②情報技術検定・ワープロ検定・情報処理技能検定試験

##### ・情報技術検定とは

全国工業高等学校長協会主催、文部科学省後援の情報技術の基礎に関する検定である。目的としては、基礎的情報技術の知識と技能が習得されているかを検定することである。3級から1級まであり、3級は情報技術に関する初級の知識を問うもので、情報技術学習の入門というべきレベルであるが1級は国家試験の情報技術者試験に近いレベルで合格率は1割程度である。段階的に情報技術に関する知識を習得していくために適当である。

##### ・日本語ワープロ検定試験とは

日本情報処理検定協会主催の民間検定試験であり、文部科学省が後援する日本語ワードプロセッサの文書処理能力向上を図るために実施している検定である。パソコンの日本語ワープロソフトの有効な利用を通じて、日本語の入力及び文書処理能力を身につけるとともに、情報化社会の中でコンピュータの活用能力の向上を図ることを目的としている。

##### ・情報処理技能検定試験とは

日本情報処理検定協会主催の民間検定試験であり、情報処理能力の向上及び情報社会の発展に寄与し、受験者の資質の向上を図るために実施している検定である。パソコンの表計算ソフトの有効な利用を通じて、情報処理能力を身につけるとともに、情報化社会の中でコンピュータの活用能力の向上を図ることを目的としている。

##### ・受験の背景

本校は教科「情報」の代替科目として工業科科目の「情報技術基礎」を履修している。情報技術基礎では、社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させる

とともに、情報技術に関する知識と技術を習得させ、工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てることを目的としている。そのため、授業では教科書を基本として、情報処理を主体的実践的に活用するため演習や実習を積極的に取り入れている。情報技術検定の問題に取り組むことで情報技術の基礎についての理解を深めることができる。また、情報技術の問題解決に慣れることで理解の程度を客観的に証明できることと、就職採用試験や進学入学試験等の専門科目に対応することができる。また、検定であることから4級3級2級というように難易度の高い級を段階的に目指すこともできる。

### ③建築施工管理技士試験

#### ・建築施工管理技士とは

建築施工管理技士技術検定制度は建設業法第27条に基づき、国土交通大臣指定機関が実施する国家試験である。高校生が受験可能な2級は一般建設業の許可を受ける際に必要な「営業所ごとに配置する専任の技術者」及び「建設工事における就任技術者」として認められることに必要な施工管理に携わる場合に必要不可欠な資格である。

#### ・受験の背景

本校の建築コースは建築に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。履修科目は建築施工の他に建築構造、建築構造設計、建築計画、建築法規等があり、建築系科目が多岐にわたるが建築施工技士試験の演習をすることでこれらを体系的に結び付け、合格を専門高校建築コースで学ぶ生徒の最終目標としている。建築施工の現場で非常に有用な資格であり、2級は17歳から受験可能で建築コース卒業までには是非取りたい資格である。

### ④計算技術検定

#### ・計算技術検定とは

全国工業高等学校長協会主催、文部科学省後援の計算技術の基礎に関する検定である。目的としては、数学の知識と電卓・ポケコンの技能と計算力が習得されているかを検定することである。4級から1級まであり、4級3級は電卓・ポケコンの初級の技能を問うもので、比較的合格率も高い。2級1級は高校数学全般の知識が問われ、難易度が高く合格率も低い。

#### ・受験の背景

工業科の原則履修科目の一つである「工業技術基礎」では、工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、各分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとともに、工業に関する広い視野と倫理観をもって工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。その中で、計算技術の演習を行うことで工業技術への基礎学力を高めさせるとともに、数学の知識も深めることができる。また、実業務に必要な計算力を客観的に示すこともできる。

## ⑤基礎製図検定

### ・基礎製図検定とは

全国工業高等学校長協会主催，文部科学省後援の製図の基礎に関する検定である。

目的としては，製図の基礎知識をよく理解し，投影図法を確実に把握する能力を養い，製図教育の振興を図ることとされている。

### ・受験の背景

工業科の共通的な基礎科目の一つである「製図」では，製図に関する日本工業規格及び工業の各専門分野の製図に関する知識と技術を習得させ，製作図，設計図等を正しく読み，図面を構想し作成する能力と態度を育てる。工業系の生徒は製図が得意なものも多く，人気のある科目である。技能的な側面が高いため，その技量を図る手立てが少ないことから，基礎製図検定を受験することで，知識と技能を高めるとともに，客観的に技量を証明することができる。

## ⑥電気工事士試験

### ・電気工事士とは

電気工事士法によって，電気工事の欠陥による災害の発生を防止するために，一定範囲の電気工作物について電気工事士の作業に従事する者の資格が定められている。また，第一種電気工事士は自家用電気工作物と一般用電気工作物の作業に従事でき，第二種電気工事士は自家用電気工作物と一般用電気工作物の作業に従事できる。

### ・受験の背景

本校の電気コースは電気に関する知識と技術を習得させ，実際に活用する能力と態度を育てる。履修科目は電気基礎の他に電気機器，電力技術等があり，広範囲の電気に関する知識を履修している。その中でそれらの基礎的な知識を第二種電気工事士の演習問題で定着させることができるとともに，実技を伴うことで電気の学習を体験を通して感じる良い機会となっている。また，社会においても非常に必要とされる資格であり，将来にわたって活用できる資格であり，生徒の達成感満足度も非常に高い。

## ⑦ボイラー技士試験

### ・ボイラー技士とは

労働安全衛生法に基づく国家資格で，空調・温水ボイラーの操作，点検を業務とできる。ボイラー技士はボイラーが正常に稼働し，建物内の空気や空気や温水の調整を管理できる状態を整える業務である。そのためにボイラーの運用・管理から定期的なメンテナンスや点検に携わり，その状態を常に確認・修正できる技能が求められる。事故発生時のリスクも大きいボイラーの管理を主な仕事とする。

### ・受験の背景

本校の機械コースは機械に関する知識と技術を習得させ，実際に活用する能力と態度を育てる。履修科目は生産システム技術の他に機械工作，機械設計等があり，広範囲の機械に関する知識を履修している。その中の科目で「原動機」の一つの動力の実践的な例としてボイラーを取り上げている。ボイラー技士の演習問題を行うことでエ

エネルギーについての学習の良い機会となっている。また、この資格は大型商業施設やオフィスビルは空調管理や温水の供給に必要であり、それらの施設の建設時もボイラー技士が立ち会う必要がある。ホテルや病院でもボイラー技士が必要であるなど、社会においても非常に有用とされる資格で将来にわたって活用できる資格であり、生徒の需要も非常に高い。

#### 4 成果

##### ①危険物取扱者試験

工業系専門高校としての意識づけとしての目的が大きい。受験について生徒全員に周知し、補習等に参加し根気強く勉強することを納得させ申込みをさせている。始業前1時間、放課後1時間の補習に参加させ合格を目指す。資格試験の取り組みなどの工業系専門高校生としての意識を持たせる機会としている。最初は乙種第四類から受験させるが合格率は2割程度である。合格者の成功体験の影響は大きく、乙種は全部で6類あるが今年度の2年次生は2名の生徒が乙種6類全部取得した。また、合格を逃した生徒も再度挑戦したり自分の興味のある資格に挑戦を考えている。

##### ②情報技術検定・ワープロ検定・情報処理技能検定試験

情報技術検定は授業中に演習を行うため全員が受験している。合格率は3割程度である。初級の3級を受験するが、情報技術学習に興味があるものが多く、学習に積極的に取り組みやすいとは言えない検定の合格を達成できている。合格に及ばなかった生徒も基本的な情報技術に関する知識を習得する機会になっている。

日本語ワープロ検定試験・情報処理技能検定試験も原則的に全員が受験している。両資格とも初級と言える3級であり、知識を問う筆記試験は易しいことから技能練習をしっかりと行うことで合格率は7割から全員合格となっている。情報系の資格を取得することで、現在の情報化社会で働くことへの励みとなっている。また、事務処理でのパソコン技能として基本的なワープロと表計算の技能があることを客観的に証明でき、就職の助力となっている。

##### ③建築施工管理技士試験

本校の建築コースでは受験は最終学年で2級の受験を想定している。それを目標に各建築関係の科目で試験内容を演習として取り入れている。しかし、2級とはいえ非常に高度な資格であり、高校生にとっては難易度の高い資格で、試験勉強も授業の内容だけでは不足することから長期にわたる補習を必要とする。そのため受験に至る生徒は少数で合格者は少ない。しかし、建築現場では必須の資格であり、将来建築現場で働くものは受験の必要に駆られる。その時に受験準備の経験があることは大きい。将来の合格に可能性を残すことができる取り組みである。また、建築関係各科目の知識の定着に役立っている。

#### ④計算技術検定

「工業技術基礎」での実習で取り組んでおり、内容が容易なことから生徒は無理なく演習を継続できている。小テストを繰り返すことで達成感もあり積極的に演習できている。合格率もほぼ100%であり、成功体験の一つとなっている。また、他の専門科目で必要となる数学的知識や電卓技能の習得として意義は大きい。

#### ⑤基礎製図検定

「製図」では、どうしても製図の作品を書くことに集中し、理論の定着が後回しになることがあるが、この資格に取り組むことで知識の習得に役立っている。安易というわけではないので合格率は半数程度である。また、機械系事業所の就職にも有利となっている。

#### ⑥電気工事士試験

本校の電気コースでは専門分野でもあり、対策をしっかりとることで合格が困難でないことから多数の生徒が受験している。合格率は50%以上である。電気工事には必ず必要な資格であり、電気関係の職場では取得が必須な場合も多く、就職に大変有利となる。また、家業が電気工事関係の生徒もおり、積極的に取り組んでいる。そのため、1度合格しなくても粘り強く、継続して受験する生徒が多い。また、就職に有利なことから機械コース、建築コースからの受験希望者もおり、そのような生徒は意識も高いため合格率が高くなっている。

#### ⑦ボイラー技士試験

本校の機械コースで学習を進めており、社会的に需要が多いため取得の意味は大きい。また、機械関係で高校生が受験できる資格は多くない中で貴重な資格でもある。ただ、受験資格を得るための講習受講料や受験料が高額なため本校生徒にとって受験の妨げとなっている。

### 5 今後の課題

本校は、工業系専門高校であり、本校で工業の知識と技能を身につけ将来の就業に向け努力している。その一環として資格取得に積極的に取り組んでいるが多くの生徒が日中はアルバイト等の仕事をしている。また、放課後は部活動に取り組む生徒が多い。資格試験合格のためにはしっかり時間をかけできるだけ多くの演習問題に取り組む必要があるが、時間的制約が多く、教員側の工夫が求められている。また、専門高校関係主催の検定は受験料が少額で受験しやすいが、社会的認知を問われると低いと言わざるを得ない。一般社会で求められる資格は受験料が高額な場合が多く、練習用の材料費がかかることも多い。生徒の経済的負担についても考慮しなければならない中で資料代を少しでも援助していただけたことはありがたい。



## ○職場見学会等の実施について

### 1 目的・ねらい

ものづくりに関係した職場見学をすることで、将来の職業についての展望を抱かせる。また、就職希望者に対して、面談等を通して本人の希望や職業の適性を考慮した上で、企業の求人開拓を行う。その後、求人可能となった企業に職場見学会開催を依頼する。生徒が、会社の雰囲気や仕事内容を十分理解できた上で受験意思を固めることで、就労に向けた意欲向上と離職率の低下を図る。

### 2 内容

生徒・保護者との面談を通して、希望する業務内容や就労条件等に合致した会社へ職場見学会を依頼し、可能な限り採用試験受験・内定に結びつけられるようにする。

### 3 取組

- ① 在校生の進学希望で人気のある進学のうち、自動車整備士の養成課程がある。今年度の卒業生の中にも希望生徒がおり、進路指導主事が関係大学の入学説明会に参加し、学習内容や入学方法について確認した。入学確定後に管理職が訪問し、情報交換をした。
- ② 情報技術関係の大学への進学希望生徒が複数おり、進路指導主事が関係大学の入学説明会に参加し、学習内容や入学方法について情報を集めた。
- ③ 機械コース4年次生の1名が、溶接関係の仕事に就きたいとの強い希望があった。県内の工場プラント設備・製造等を行なう鉄工所に職場見学会を実施していただいた。担任教員と生徒本人が参加し、業務内容を見学させていただくとともに会社側にも本人の意向等を聞いていただいた。
- ④ 在校生の進学希望で人気のある進学のうち、自動車整備士の養成課程がある。今年度の卒業生の中にも希望生徒がおり、進路指導主事が訓練校の施設見学会に参加し、学習内容や入学方法について確認した。
- ⑤ 省力機械・自動組立機械の設計・製作をされている県内企業に職場見学会を実施していただき、本校の教員1名と機械工作部員3名が参加した。製作現場や工作機械での部品加工を見学させていただいたことで、工場で働くということを肌で実感でき、勤労意欲を増すことができた。
- ⑥ 在校生の進学希望で作業療法士・理学療法士の養成課程がある。今年度の卒業生の中にも希望生徒がおり、進路指導主事が関係専門学校の入学説明会に参加し、学習内容や入学方法について確認した。

#### 4 成果

- ① 1名の生徒が複数の進学先のうちから、教育内容、費用、立地、校風などを検討した上で最終的に該当大学に決定した。中学校までは目標のない学校生活を送っていたが、本校で学習を進めていく過程で自動車整備士になる目標を持ち、希望の進学先を選び将来に希望を持った。本校で得た情報を基に選択した学校への進学決定し入学を心待ちにしている。
- ② 地元大学の、学習内容を見学会で十分理解することができ受験を決定し、2名が希望の情報関係の大学に合格することができた。
- ③ 機械コース4年次生の生徒で、本校で溶接の技能を磨き県内溶接大会で優勝するなどの実績を持つ生徒が、就職でその技能を活かしたいとの希望があったため関係の県内鉄工所を見学し、本人も強く就職を希望し、会社側にも生徒を評価していただき決定できた。
- ④ 在校生の進学希望で人気のある、自動車整備士の養成課程がある。今年度は希望者は出なかったが、今年得た情報を在校生にも活かしたい。
- ⑤ 見学参加生徒にとっては、よい経験となった。就職先としては求人はいかならなかったが見学等を継続して、本校に理解を深めていただき本校生徒の採用を実現させたい。
- ⑥ 作業療法士・理学療法士の希望生徒がいたが、受験には至らなかった。今後も入学説明会等に参加し、学習内容や入学方法について継続して情報を集めたい。

本校採用実績のある企業とは継続して、関係を続けるとともに生徒の希望に応じて就職先の開拓を進めていきたい。また、進学については費用等の考慮も必要であり、できるだけ多くの情報を集め、生徒にとって最良の選択ができるよう助力していきたい。そのため、関係企業、学校等と積極的な情報交換を行うことが重要であり現地への交通費を拠出いただき感謝したい。

#### 5 今後の課題

本校の生徒は特別な事情を持つものも少なくなく、環境についても配慮を必要とする場合が多い。やみくもに就職や進学を勧めるのではなく、本人の適性或家庭の都合などを十分に考慮することが重要であり、そのためには企業、生徒、保護者等と十分なコミュニケーションをとり納得した上で進路を決定して行かなければならない。又、今年度の残りの期間を利用し、関係事業所及び進学先を管理職が訪問し、就職先や進学先に生徒個人について十分説明をし理解を深めておきたい。就職進学先とならなかった事業所学校等にもできるだけ訪問を重ね、本校の学校の状況や生徒の様子などを説明し理解を求めて生きたい。

## ④ 富岡東高等学校定時制課程

### ○購入図書について

#### 1 目的・ねらい

就職希望と進学希望の生徒が、それぞれ、自分の進路目標を達成するために参考とする図書を購入する。

#### 2 内容：次の2冊の図書を購入した。

- ① 高校生の就職試験 一般常識&SPI [2020年度版] (一橋出版)
- ② 小論文これだけ！書き方超基礎編 (東洋経済新聞社)

#### 3 取組

就職試験における一般常識やSPIに出題される内容は、高校の学習内容を教科横断的に編成し直したものであり、上記2の1)の図書を用いて受験対策することが役だった。

また、進学試験における小論文対策も、上記2の2)の図書を用いて実施することができた。

#### 4 成果

就職に関しては、就職希望の生徒3名中、現在1名が内定を獲得し、2名は就職活動中である。進学に関しては、進学希望の生徒4名中、全員が志望校に合格した。2名は4年生大学(県内)、2名は専門学校(県内1名、県外1名)である。

また、これらの一連の指導が、「学校評価(生徒)アンケート」において、関連項目の肯定的評価が前年度より上昇した一助になっていると考えられる。

- ※ 「学校評価(生徒)アンケート」における肯定的評価
- |  | H30 | R1  |
|--|-----|-----|
| ○ 進学や就職など、進路に関する情報は十分提供されている。              | 65% | 72% |
| ○ 学校は一人ひとりのよさを伸ばし、進路希望を達成するために積極的に取り組んでいる。 | 62% | 69% |
| ○ 本校では、生徒の進路希望に沿った具体的な進路指導が行われている。         | 62% | 66% |
| ○ 私は、本校定時制に入学してよかった                        | 59% | 76% |

#### 5 今後の課題

今回の購入図書を利用して、希望進路獲得の直接的かつ具体的な対策に当たることができた。しなしながら、生徒ひとり一人の基本的資質に関して、学力、自己肯定感・自己有用感、ソーシャルスキル等を総合的に高めるよう、日々の教育活動がより充実するよう教員は今以上に取り組まなければならない。

## ⑤ 鳴門高等学校定時制課程

### ○会社見学について

#### 1 目的・ねらい

私たちが普段目にしてしている商品が，どのようにして生産され，購入できるかを学ぶ。また，本校の生徒は就労意識が低く，卒業年度に安易にアルバイトを選択する生徒が毎年1，2名いる。担当者から正社員とアルバイトの違いを説明をしていただき，職業観の育成を図る。

#### 2 内容

大塚製薬株式会社板野工場に会社見学に行き，ソイジョイ，ソイカラの生産過程を見学する。また，担当者に正社員と契約社員・アルバイトのメリット，デメリットの説明を依頼した。

#### 3 取組

令和元年10月15日（火）に実施した。

資質・能力	行動目標	A	B	C	D
知識・理解	大塚製薬株式会社の企業理念を答えられるか	答えられる	ある程度答えられる	あまり答えられない	答えられない
	正社員と契約社員・アルバイトのメリット，デメリットを答えられるか	答えられる	ある程度答えられる	あまり答えられない	答えられない
計画力	正社員と契約社員・アルバイトの説明は，今後の自分の進路決定に役立ったか	役に立った	少し役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった
課題発見力	大塚製薬株式会社板野工場が生産しているものを答えられるか	答えられる	ある程度答えられる	あまり答えられない	答えられない
実行力	この会社見学の印象はどうだったか	満足している	少し満足している	あまり満足していない	満足していない
主体性	来年度も会社見学に行きたいか	行きたい			行きたくない

#### 4 成果

正社員と契約社員・アルバイトのメリット、デメリットを答えられるかという質問に対して、答えられる10名、ある程度答えられる21名で、合計生徒数は31名(84%)だった。正社員と契約社員・アルバイトの説明は、今後の自分の進路決定に役だったかという質問に対して、役に立った17名、少し役に立った20名で、合計生徒数は37名(100%)だった。この会社見学の印象はどうでしたかという質問に対して、満足している21名、少し満足している15名で、合計生徒数は36名(97%)だった。来年度も会社見学に行きたいですかという質問に対して、行きたい生徒数は34名(92%)だった。

ほとんどの生徒が、正社員と契約社員・アルバイトのメリット・デメリットを理解しており、全生徒が自分の進路決定に役に立ったと感じている。

#### 5 今後の課題

会社見学は夜間での実施はできないという会社の意向があったため、学校集合は13時30分で、見学は14時15分に実施した。当日2名がアルバイトのため欠席し、7名が集合時間に間に合わず欠席となった。本校では、昼夜逆転の生活を送っている生徒が多く、基本的な生活習慣を身につける指導が必要である。



## ○進路講演会について

### 1 目的・ねらい

本校生徒は就労意識が低く、入社し3年以内で退社する卒業生が、毎年1, 2名いる。外部講師を招き、講演を通して生徒の就労意識の向上を図る。

### 2 内容

会社の社長を講師として招き、社会人として守らなければならないことや、社会人になるにあつたての心構えについての講演を実施する。

### 3 取組

令和元年11月19日(火)に、講師として小池 晴夫氏を招き、「社会人になり、答えがないような課題に直面したとき、どのように対処するか」をテーマにした講演を実施した。

小池 晴夫氏 職歴

2004年 日亜薬品工業株式会社(現在シオノギファーマケミカル株式会社)  
代表取締役社長就任後、6年間社長を務めた。

2010年 日亜薬品工業株式会社 特別顧問就任後、2年間特別顧問を務めた。  
高知大学客員教授就任。

2012年 徳島大学薬学部非常勤講師就任

2018年 徳島文理大学 私立大学研究ブランディング事業事務長就任

### 4 成果

講演内容で少し難しい箇所があつたが、生徒は、答えがないような課題に直面したときの対処法を、少なくとも1, 2項目は理解できたと考えられる。「何もしない」が一番やってはいけないことだと、生徒全員が理解したと推察できる。

### 5 今後の課題

講演内容で少し難しい箇所は、あまり理解できていない様子がみられた。事前にメモを取る指導をし、メモを取る習慣を身につける必要性を感じた。



## ⑥ 池田高等学校定時制課程

### ○職業体験・職場見学・ビジネスマナー講座等について

#### 1 目的・ねらい

社会人・職業人として求められる資質・能力，世間の動向や労働者の権利等の理解を深め，実際の仕事や職場の雰囲気に触れることにより，主体的な進路選択に繋げる。

#### 2 内容

事業所訪問による職業体験や職場見学，アドバイザーによるビジネスマナー指導等を通して，社会人・職業人に求められる知識や心構え，行動規範等について学ぶ。

#### 3 取り組み

- ◇ 8月 ビジネスマナー講座Ⅰ 「面接に役立つ，好感度アップ・マナー講座」  
12月 ビジネスマナー講座Ⅱ 「気づかい力アップ・マナー講座」  
講師： オフィスカラー マナー講師 水谷紀子氏
- ◇ 12月 社会福祉法人 池田博愛会（障がい者入所施設での職場体験・見学）
- ◇ 12月 職業体験・職場見学（日プラ株式会社，四国ガス株式会社，株式会社マキタ）

#### 4 成果

障がい者施設や3つの事業所で実施した職業体験や職場見学では就労への動機付け，働く意義等について，ビジネスマナー教室では社会人としてのマナーや心得について意識させることができた。

#### ※事業実施後アンケート結果 抜粋

(とても思う+思う)

事業名	質問	肯定的評価
ビジネスマナー講座	社会人・職業人としての心得を考える機会になった	94% (39+55)
	コミュニケーションで気をつかおうと意識するようになった	94% (39+55)
	ビジネスマナーについて意識するようになった	94% (33+61)
職場体験・見学	積極的に取り組むことができた	100% (53+67)
	将来の仕事を考えるきっかけになった	91% (44+47)

#### 5 今後の課題

就労意欲が低い生徒も見受けられるため，入学後の早い段階で進路ガイダンスや職業体験・職場見学等を積極的に実施し，早期に進路意識を芽生えさせ，自分自身で進路選択しようとする意欲や態度の育成，継続して就労できる忍耐力を育成する必要がある。また，生徒の適性に応じて，職業とのマッチングについて考える機会を設けたい。

## 2) ソーシャルスキル向上指導

### ① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

#### ○忌避意識を払拭する営みとしての人形劇団「とくしま中央一座」の取組

##### 1 はじめに（目的及びねらい）

本年度は、絵本作品を題材とした人形劇団「とくしま中央一座」が発足して10周年を迎える。初演ロシア民話『まんまるパン』を皮切りに、以来、『赤ずきん』『ブレーメンの音楽隊』『三匹のコブタ』『おおかみだつてきをつけて』『がまくんとかえるくんシリーズ～おてがみ』『がまくんとかえるくんシリーズ～クリスマス・イブ』『おおかみのおなかのなかで』『わたしのワンピース』『こぐまちゃんのほっとけーき』『くわせろ』『くねくねさんぽ』等の名作絵本童話を手がけ、上演にこぎ着けた。一方、『赤ずきんとブレーメンの音楽隊』『赤ずきんと三匹のコブタ』『まんまるパン～その後のお話』『ゴキブリーブリー』『チンアナゴのきょうだいとクリスマス』と、人形劇団としてオリジナル作品にも着手し、公演をさせていただいた先々の施設で好評を得ることができた。

数年来、なぜ指導者（＝本稿では筆者）が忌避意識の払拭を念頭に置いた活動を展開してきたか。それは、本校に向けられる社会に根ざされた厳然としたマイナスイメージが数年前まで往々にして在ったからである。

現在は、ネット上に観られる本校の口コミを見ても、心無い書き込みは減り、年々、本校に対する評価も上昇しているものの、四、五年前に遡れば、2チャンネルや学校裏サイト掲示板では悪辣で差別的な書き込みで溢れ返っていた。故に、本校に対する偏見や差別意識が横行し、露骨な誹謗や中傷が本校生徒に浴びせられ、そのような高校に中学からの輪切りの状態で入学し通学を余儀なくされた生徒たちは、必然的に胸を張れなかったし、卒業しても本校が母校であるということに誇りが持てなかったのである。

指導者は、そのような本校の在りようを、在職してこれまでの18年間見続けてきた。生徒たちが一步校外に出れば差別や偏見に直面し、憂鬱を抱えて生活していかなければならない状況を何とか克服し、人としての尊厳と生きる喜びを会おうすべての人と分かち合える存在として世に送り出したいという願いを持ち、この人形劇の取組を推進してきたのであるが、その着眼した点は次の通りである。

まず、如何にして社会に根ざされた本校へのマイナスイメージを払拭するか。この点に着目し、人権教育で取り組まれている「ケガレ観」の払拭を目指した私たちの活動と営みを考えた。絵本によく嫌われ役として登場するオオカミを、肉食性としての立場を理解してもらえようようなシナリオを考えたり、ヒーロー的存在として演じることにより、またそれを意図して演じることで、観劇するフロア側の理解を求めようとしたものである。同様に、連作の人形劇においてヘビやゴキブリなど、嫌われキャラを主人公に据え、物語を創ることに拘った。

本校生徒には、自尊感情が乏しい生徒が多く見受けられ、自己効力感が持てない生徒が少ないと感ずる。それはどうしてなのか。当然のことながら、上記に書いたような本校生徒へのマイナスイメージが、そうさせているのである。ならば、そのイメージをどうにか



してプラスに転換させ、解放された自己認知をさせて社会へと飛び立たせたいというねらいが指導者にはあった。嫌われキャラのイメージ払拭が、同時に本校や生徒たちのイメージアップに繋がることを信じ、保育園、障がい者施設、高齢者施設、公共図書館、書店、テクノスクール等、と公演の幅を広げ、人形劇の上演活動を続け、10年の歳月が経過した。

その軌跡を辿り振り返った時、幾千もの出会いとふれあいと、そして、人とのつながりが私たちにもたらされ、私たちを包含する社会と生徒たちの意識とが変容したことが実感される。継続する力が理解者を生み、仲間となり、ずっとつながって行くことで温かな人間関係が構築され、協力し合うことでより良いコミュニティが創造されてきたと考えるのである。そして、この活動の下支えをしてくださっているのが、本事業（＝「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」）である。本事業なくして、「とくしま中央一座」の活動は有り得ない。この稿をお借りして御礼を申し上げる次第である。

## 2 内容

令和元年度「総合的な学習コース別：とくしま中央一座」〔徳島県立徳島中央高等学校定時制昼間部〕

### ◆ ソーシャルスキル向上指導の取組



〔目的〕: 自他を知り, 自尊感情の獲得

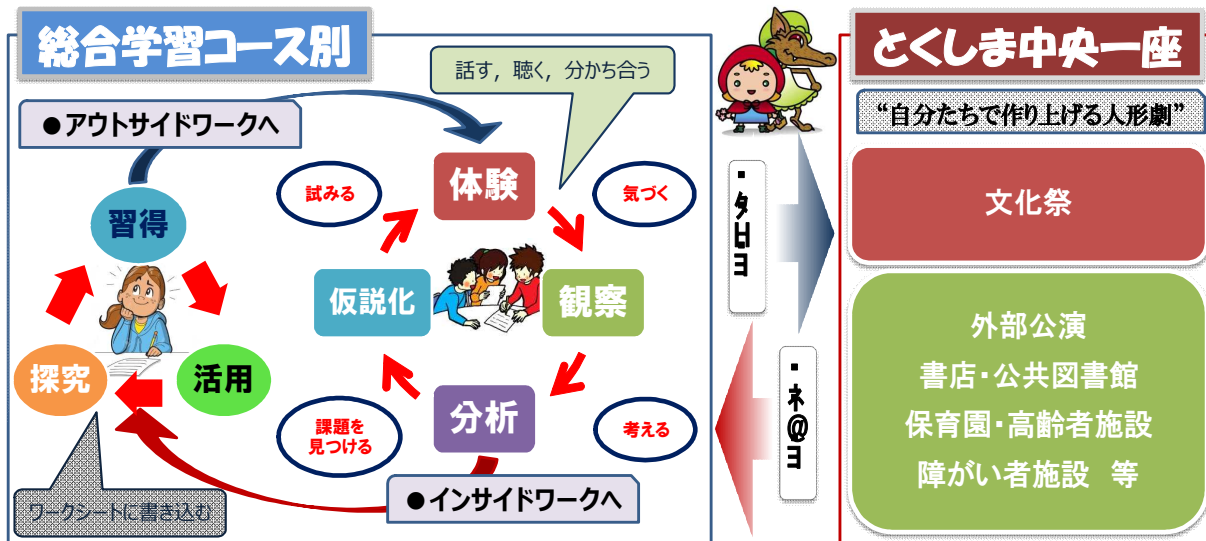
“思いやる心”の育成

〔方法〕: シェアリング法

- インサイドワーク：体験を通して感じた気持ちや気づき, アイデアを客観化する
- アウトサイドワーク：客観化したことがらを自己開示し, 他者と分かち合う

〔検証〕:

- ▼ 定質分析：ワークシートの記述と授業での関与観察の記録から生徒の変容を読み取る
- ▼ 定量分析：自尊感情を指標に, 3観点(自己評価・自己主張・関係の中の自己)を測定・分析する



### 3 取組

[年間計画]

	人形劇	絵本の読み聞かせ	時間
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人形劇を演じることの意義について</li> <li>・題材を「大草原のゆかいな仲間たち」に決定</li> <li>・テーマについて確認</li> <li>・脚本の執筆</li> <li>・役柄・役割についてのミーティング</li> <li>・脚本の読み合わせ・校正</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本図書の選定</li> <li>・絵本図書の注文</li> <li>・絵本の読み込み（朗読練習）</li> </ul>	2
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脚本の読み合わせ・校正</li> <li>・舞台装置・小道具づくり</li> <li>・人形製作</li> <li>・脚本の読み合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み込み（朗読練習）</li> </ul>	3
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台装置づくり</li> <li>・人形製作</li> <li>・脚本の読み合わせ・修正</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ実技研修会</li> <li>①心構え ②発声練習</li> <li>③読み聞かせのTPO</li> <li>④エプロン・シアター練習</li> <li>⑤実演練習</li> </ul>	部活動
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大道具製作</li> <li>・脚本の読み合わせ・修正</li> <li>・ミーティング</li> <li>・上演練習</li> <li>・附家書店（国府店）にて外部公演8/24</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み込み（朗読練習）</li> <li>・附家書店（国府店）にて外部公演8/24</li> </ul>	部活動
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上演練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み込み（朗読練習）</li> </ul>	2
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上演練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上演練習</li> </ul>	2
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上演練習</li> <li>・中央祭（文化祭）上演会11/3</li> <li>・テクノスクール文化祭コラボ11/9</li> <li>・阿波市子どもぶんぶん祭11/24</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上演練習</li> <li>・中央祭（文化祭）上演会11/3</li> </ul>	2
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上演練習</li> <li>・保育園にて上演会（2か所）</li> <li>・NPOにんじんの会交流会12/9</li> <li>・阿波市吉野図書館公演12/21</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上演練習</li> <li>・保育園にて上演会（2か所）</li> <li>・NPOにんじんの会交流会12/9</li> </ul>	部活動
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度に向けたミーティング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度に向けたミーティング</li> </ul>	1
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とらまるパペットランド研修2/9</li> <li>・反省会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とらまるパペットランド研修2/9</li> <li>・反省会</li> </ul>	部活動

#### [具体的な手順]

- (1) 原作となる絵本の選定 → 著作権の許諾を得る
- (2) キャラクターの役割分担を決める
- (3) 台本づくり&読み合わせ → 原作からのシナリオ化とアレンジ
- (4) 主題や作品を演じることのねらいの確認と共通理解
- (5) パペット人形の製作もしくは調達,  
小道具・大道具づくり, BGM・歌・効果音の製作
- (6) 舞台稽古 → シナリオの修正, 追加
- (7) 本格的な舞台稽古 → 立ち居振る舞い, 所作, 舞台道具の位置の確認

- ※ どうすれば、より面白くなるか?という視点で、セリフやパペットの動き, BGM・歌・効果音の製作を修正したり, 追加を重ねてりしていく。セリフが覚えられ, パペットの動きが体得できるまで, 繰り返し練習をする。
- ※ グループワークの方法については, インサイドワーク=(自分自身への振り返り), アウトサイドワーク=(他者から評価を受けての振り返り)という手法を用いてシェアリングを行う。仲間と心をつなげて, 童話(ファンタジー)の世界に浸り, それを思いを語り合うという作業を繰り返して, ソーシャルスキルを磨きながら人形劇としてリアルに表現する。

#### 4 成果

本年度は、活動3年目となる3年次生5名に加え、2年次生4名が参加してくれた。メンバーの中には、自閉傾向のある生徒や多動傾向、人前で物怖じしてしまったり、完璧に覚えたはずのセリフが緊張で飛んでしまったり、人形劇上演中にアクシデントが付き纏う場面もあったが、常に前向きにメンバー同士で心をつなげて、創意工夫を積み重ねて行き、指導者が想定していた芸術性の高い、観劇に来てくれた人々に喜んでもらえるオリジナル作品が3本立てで上演できた。協働して人形劇を仕上げるという共通の目的が、互いにフォローをし合い、仲間同士の関係性を築いて行く中で、揺るぎない信頼に裏打ちされた心の絆が芽生えたと感ずる。

さて、次年度は既に徳島新聞社からのオファーがあり、来たる6月27日に阿波市防災拠点施設「アエルワ」で終日、人形劇関連のイベントへの参加依頼があった。これまで活動の中心を担ってくれていた3年次生は卒業してしまうが、新3年次生を主力として、また新たなメンバーも加え、より充実した、人形劇団「とくしま中央一座」の進化と呼べるに相応しい活動を展開して行きたいと考える。

## 5 今後の課題

- ① 遠征費の捻出に工夫をしたい（1公演に係る遠征費は3～4万円）。
- ② 練習時間の確保（午前部生と午後部生と一緒に練習できる機会が少ない）。
- ③ 公演シーズン（11月12月）になると、生徒及び教員の休日がなくなる。  
（土日の公演疲れで生徒が本業の授業を休んでしまう）

上記、3点について、改善をして行きたい。



グループワーク中のメンバー



オリジナル作品の練習を終えて

## ○2年次「国語総合」科目における読み聞かせ絵本探求授業について

### 1 目的・ねらい

2年次「国語総合」科目等において、名作絵本に触れることで情操を豊かにし、生徒の自己有用感を高め、読書活動に親しむ態度を育成する。その中で、絵本作品について、テーマ・内容・登場人物・作者の思い等々をワークシートに記入させ、「生徒の気づき」を中心にフィードバックすることにより、絵本の世界を深く読み味わうとともに、物語作中に登場する主人公の生き方や考え方に思いをいたし、生徒一人一人が自らの人生を豊かに生きようとする元気や優しさを養う契機となればと考え、本事業の支援を受けて2年目の取組を実施した。

### 2 内容

昨年度と同様、絵本の読み聞かせを行っているボランティアグループの読み手の方々と、綿密な打ち合わせを行い、生徒たちの読書体験を積み重ねる取組を通して、言語感覚を養うことや自尊感情を高めることに繋げてきた。

今年度も、「読み聞かせ授業」を実施するだけでなく、取り上げた絵本作品のストーリーやテーマ、主人公やその他の登場人物の生き方や考え方についてじっくりと読み味わい、作品世界を探求させることを生徒たちに試みさせ、ワークシートをもとに作品理解及びテーマへの考察を課した授業を展開した。

以下、「3」の「取組」に、その授業活動で実施したインサイドワークによる振り返り学習とアウトサイドワークによるフィードバックした内容を記した。

### 3 取組

社会人の読み聞かせサークル「吉野川市よみきかせグループかぶとむし」から講師を招き、年間9回の読み聞かせ授業を実施した。対象は2年次の「国語総合」の科目において実施した。毎時間（指定された「絵本探求」の時間）、生徒は前半の時間に読み手の方からの「絵本の読み聞かせ」を聴き、後半の時間にその読み聞かせて戴いた絵本作品のテーマや内容、作者の思いをワークシートに記入し、振り返りを行うという展開で授業活動を試みた。

#### ※ 「国語総合」絵本探求ワークシートの記録（抜粋）

	絵本のタイトル	作者・絵・訳者・読み手
第〔 1 〕回 9月12日(木)	『おかあちゃんがつくったる』 o r 『小学生のボクは鬼のようなお母さんにナスビを売らされました』	作…………長谷川義史 作…………原田 剛 読み手……森住 啓子氏
心に残るフレーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おかあちゃんがつくったる」</li> <li>・「お母ちゃんは車で泣いてたんぞ」</li> <li>・「ナスを売ってこい！」 ・「売ってこい」</li> <li>・「〇〇のようで〇〇でない、べんべん」</li> <li>・生きていくことを教えてくれていた</li> </ul>	
印象に残った場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きていくことを教えてくれていた。</li> <li>・父親参観の日に一人だけお母さんがきた場面。</li> <li>・主人公が「お父ちゃん作って！」とお母ちゃんに言い寄った場面。</li> <li>・よしおがお母ちゃんに「お父ちゃん作ってだ」と言っていて、お母さんが悲しそうな顔をしている場面。</li> <li>・頼んでもいないのに母がカバンに名前の刺しゅうを入れていたところ。</li> <li>・「おかあちゃん、なんでもつくれるねん」と言っていたところ。</li> <li>・最後のお父さん達の中にお母さんが混ざっていたシーン。</li> <li>・10歳の子がなすびを売りに行かされた場面。</li> <li>・母が死んでしまったところ。 ・車の中で泣いているお母さん。</li> <li>・母が入院している場面。 ・なすが売れるとき。</li> <li>・お母さんがミシンでかばんなどを作っているところ。</li> <li>・母が白血病だったところ。</li> <li>・子どもがなすびを売りに行くところ。</li> <li>・お母さんがトラックで泣いていたところ。</li> </ul>	

<p>おかあちゃんについて思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども思いで何でも作ってあげていて、お父さんが亡くなってしまっていないから、少しでも子どもを支えていて、本当に優しいと思った。</li> <li>・ミシンでなんでも作ってた。</li> <li>・息子思いの良いお母ちゃんだなと思いました。そして、すごい考え方をするので、お母ちゃんはすごいと思いました。</li> <li>・子どものために行動してくれるが、多少おせっかい。</li> <li>・手先が器用で面白いお母ちゃんだなあと思った。</li> <li>・鬼のように怒ったのは、子どもの将来を考えたからだと思った。</li> <li>・鬼のような顔をしていながら、考えていることは、子どものことをとても考えていて、いいお母さんだと思いました。</li> <li>・鬼のようなお母ちゃんだったけど、後々思うとやさしいおかあちゃんであったことがわかった。</li> <li>・最初は十才の子にひどいと思っていました。</li> <li>・病気なのに子どもに弱い部分をみせず、明るいところだけをみせることがすごいと思った。</li> <li>・すごく心が強く最後まで子どものことを思っていた。</li> <li>・ええ人やなと思った。 ・優しい。</li> <li>・お母さんが一番辛いのに、本当に強いなと思った。</li> </ul>
<p>他の登場人物について思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の絵のところには、必ず姉が描かれていて家族の温かさを感じた。</li> <li>・他の登場人物も、面白い表情をしていたり発言をしたりしてとても面白かったです。</li> <li>・多少友だちと違う服を着ているだけで、からかい笑っていた子は何が面白いのか分からない。</li> <li>・お姉ちゃんがしゃべっているシーンがあまりなかったように感じたけど存在感があるなと思った。</li> <li>・お父ちゃんが良いキャラをしていた。 ・父さんがええ。</li> <li>・団地のおばさん、おじさんがいい方だった。</li> <li>・団地のおっちゃんも本当は優しい人だった。</li> </ul>
<p>色づかいレイアウト</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいい感じの色づかい。 ・すごい力強い感じがした。</li> <li>・色づかいがカラフルでどこか暖かい感じがしました。</li> <li>・全部、濃い色のように見えた。 ・躍動感があった。</li> <li>・よく見たことのある絵柄だなと思った。 ・いい色使いだった。</li> <li>・本の表紙のなすびの絵が本物のように美しかった。</li> <li>・昔を感じる良い色づかい。 ・白黒，ツートンカラー。</li> <li>・ナスビだけ色が付いていて、思い出深いんだなと思った</li> <li>・なすびが輝いていた。</li> </ul>

<p>作者の思い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんのありがたさや愛情深さを表したものだと思う。</li> <li>・1人でミシンを踏んでたらよかったですけど、そこから社会に出ていったもんやから、人間関係がとても大変みたいでした。</li> <li>・親から伝える社会へのきびしさ。 ・古き良き時代。</li> <li>・お母さんとなすびのことが大好きだということ。</li> </ul>
<p>テーマについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母ちゃんは自分の子供のためにいろんなことをしていた。</li> <li>・愛にはさまざまな形があると思った。 ・古き良き時代。</li> <li>・母はいつでもどんな状況でも子どものことを思っているとわかった。</li> <li>・お母さんは息子にお金を稼ぐのはつらいと教えてあげているように見えた。</li> </ul>
<p>思ったこと 感じたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何よりも一番に子どもを思っているところに感動した。</li> <li>・何でも作ったるってところがすごいと思った。</li> <li>・自分の親も私たちのことをこんな風に愛してくれるのかなって考えることができたし、すごく癒やされました。</li> <li>・私もお母さんのありがたさなど、大変さなどは知っていますが、その愛情深さに少し過保護だなと困ったことがあります。それでもお母さんのことは大好きですし、この本の子供の気持ちはとても分かるなと思いました。</li> <li>・話はもちろん、森住さんの読み方がとても良くてウルウルしました。お母さんて最強で最高だなと思いました。</li> <li>・母はよしおのことを想いかばんに名を入れたりしていたが、よしおは周りにからかわれるから、喜んでいない。すれ違ってしまい難しいな……と感じた。</li> <li>・とってもあたたかいお話でした。</li> <li>・最後のおかあちゃんが着ていたスーツが野原しんのすけが通っている園長（組長）のスーツに似ているなと思った。</li> <li>・お母さんに感謝して生きていかななくてはいけないと思いました。</li> <li>・お母さんが子どものことをとても大事に思っているのが伝わり、とても感動しました。</li> <li>・すごく小学生の息子思いであったと思いました。</li> <li>・久しぶりに絵本を見て思っていたより心に残る作品が多く、いろいろな人にすすめたいと思った。</li> <li>・お母さんは強くて優しいということ。 ・大好き。</li> </ul>

	絵本のタイトル	作者・絵・訳者など
第〔 2 〕回	100万回生きたねこ 父のかお 母のかお	作……………佐野 量子 作……………ときわ みわ 読み手……堀江 満子氏
心に残るフレーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 白いねこととらねこが子どもと一緒にいるのがかわいいなと思った。</li> <li>・ 「ねこは 100 万回泣きました」 ・ 「100 万回も死んだんだぜ」</li> <li>・ のらねこになって自分が大好きになるところ。 ・ 家族での食事。</li> <li>・ 猫が死んだ後， どの場合の飼い主も一日中泣いたところ。</li> <li>・ 昭一と和子が絵のお母さんとお父さんに話しかけるところ。</li> </ul>	
印象に残った場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 白いねこと一緒にいること。 ・ 飼い主が一日中泣いたところ。</li> <li>・ 子どもができてやっと自分以外の人を好きになれたところ。</li> <li>・ 最後の泣く場面。 ・ とらねこが普通の猫になった。</li> <li>・ 白いねこに出会った時。 ・ 最後ねこが生き返らなくなったところ。</li> <li>・ サーカスで死ぬシーン。 ・ 白い猫が死んだところ。</li> <li>・ 白い猫が亡くなった時に猫が大泣きしたところ。</li> <li>・ 弟が学校の帰りに道に迷った復員兵のおじさんを助けたところ。</li> <li>・ 復員兵のおじさんがお父さんとお母さんの顔を描いた時。</li> </ul>	
とらねこについて 思うこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 100 万回も死んでしまった経験をもつと自分のことを大事にしなくなると思う。だけど，ねこはその経験を「自慢話」にしていた。意外だった。</li> <li>・ いつも 100 万回も生きていたと口癖ですごく言っていたので，とらねこはやんちゃだなと思った。</li> <li>・ 自分が大好きなねこ。いじっぱり。</li> <li>・ いろいろな死に方で死んでいて少し気の毒。</li> <li>・ ねこは 100 万回も生き続けたが，ずっといやな人にかわれていた。死んでも特に感情がなかったが，白いねこに出会って今まで悲しく泣いた人の気持ちがわかったと思う。</li> <li>・ イケメン。 ・ すごい生きてる。 ・ 何回も死んでかわいそう。</li> <li>・ 自分が大好き。けど白いねこのことも白ねこの子どもの方が好きになった。</li> <li>・ ちょっとひねくれている感じだけど優しいところもあるなと思った。</li> <li>・ 白い猫が好きだったんだなあって思った。</li> </ul>	



<p>白いねこについて 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感情が分かりにくかったが、たぶんとらねこの隣で死ぬことができ て幸せだったんじゃないかと思う。</li> <li>・白いねこは、初めは上から言っていたけど、だんだんとやさしくな っていると思った。</li> <li>・自分が大好きなねこが惚れたねこ。めっちゃ美人。</li> <li>・落ち着いていておだやかなねこ。 ・美人。 ・静か。</li> <li>・クールだった。いつまでも生きていたいと思っていたと思う。</li> <li>・大人びた感じでかわいい。 ・クールだなと思った。</li> </ul>
<p>姉の和子について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんがいないから、家事の仕事を手伝いをするのがすごい。</li> <li>・16才。しっかりしている。 ・めっちゃ弟思いやなって思った。</li> <li>・両親がいないから一人で弟の面倒をみていてすごい。 ・用心深い。</li> <li>・姉はお母さんの代わりにされていてすごいと思いました。</li> </ul>
<p>弟の昭一について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見知らぬおじさんを助けてくるくらいだから優しいんだと思う。</li> <li>・優しい人だと思った。 ・すごくやんちゃな感じがする。</li> <li>・7才。しっかりしている。 ・やさしい子と思った。</li> <li>・めっちゃ子ども。 ・弟もしっかり者やと思いました。</li> </ul>
<p>復員兵のおじさん について思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2人の親の絵を、聞いた話だけでかけるくらいだから絵が上手なん だと思う。ランプをたくさん使ったことを謝罪するくらいだから、こ の人も優しいんだと思う。</li> <li>・姉さんと弟さんの親の顔を書いてくれたのがすごくいい人だなと思 った。</li> <li>・あのニュースのあとに来たから心配だったけど、とてもいい人で良 かった。</li> <li>・2人のためにお父さんとお母さんの顔を描いてあげてすてきなおじ さんと思った。</li> <li>・最初悪い人かと思ったけど、とてもいい人で良かった。</li> <li>・めっちゃ優しくて和子と昭一の両親を想像しながら書いてくれるっ ていうことが優しいと思った。</li> <li>・あやしげなおっさんが普通の人だった。</li> </ul>
<p>色づかい レイアウト 装丁(表紙デザイン)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どっちも個性のある綺麗な絵。 ・色づかいがすごくきれいだった。</li> <li>・淡い色づかい。 ・とらねこを一番大きくかいている。</li> <li>・色鮮やかできれいだった。とても見やすくてよかった。</li> </ul>
<p>作者の思い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争で親がいなくて、めしを食べられない人とかを思って書いている と思った。</li> <li>・家族の大切さがわかった。 ・出会いを大事にする意図がみれた。</li> </ul>

テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争がなくなっていたら親がいて楽しくいるのかと思った。</li> <li>・テーマの意味がわかりずらかった。</li> </ul>
感想・意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100万回生きたねこは、聞いたことがある。読んだことがなかったので今日、内容が知れてよかった。いい話だった。</li> <li>・父のかお・母のかおは初めてで聞いたことがないけれどかわいそうと思った。</li> <li>・「100万回生きたねこ」好き、小さい頃よく読んでた。</li> <li>・ねこの絵が個人的に好みだった。 ・悲しかった。</li> <li>・堀江さん、読むのがうまかった。感情が伝わった。</li> <li>・100万回生きたくなった。 ・世界和平を望む。</li> <li>・いつもは泣かれる側のねこが失うことを知って泣いて、もう生き返ることがなくなったところがとても印象に残りました。</li> <li>・平和な時代に生まれて幸せだなと思いました。 ・よかった。</li> <li>・2冊ともすごく感動した。</li> </ul>

	絵本のタイトル	作者・絵・訳者など
第〔 3 〕回	泥かぶら	原作……眞山 美穂 文……くすのきしげのり 絵……伊藤 秀男 読み手・藤川 眞弓氏
心に残るフレーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人と泥かぶらの会話。 ・お月様の歌 ・笑顔で生きる</li> <li>・「優しい心は優しい心と呼ぶ」「心についた泥を落とすことができれば」</li> <li>・「人の身になって想うこと」 ・「寝ても覚めてもおじさんがいる」</li> <li>・どんな時でもにっこり笑うこと ・人の身になって思うこと</li> <li>・「やーい、泥かぶら」とはやしたてている ・ばかたれ</li> <li>・やさしい心はやさしい心をよぶ ・笑顔でいること</li> <li>・さんざん悪いことをした分、いいこと一つするにしても命がけ</li> <li>・仏のような美しい子 ・二両を置いていく</li> </ul>	
印象に残った場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こずえを守って泥かぶらが必死でぶたれるところ。</li> <li>・泥かぶらがこずえをかばったところ。</li> <li>・こずえとの絡みが印象的。 ・おじいさんの言葉。</li> <li>・ひとりぼっちの「泥かぶら」がいじめられた時。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こずえをかばった場面。自分ならかばわないと思うので、かばえるのはすごいと思いました。</li> <li>・泥かぶらの目に火の粉が飛んできた時に次郎兵衛が心配したシーン。</li> <li>・泥かぶらが泣いていたところ。</li> <li>・老人が泥かぶらにきれいになる方法を伝える場面。</li> <li>・こずえが泥かぶらにお気に入りの櫛をわたす場面。</li> <li>・泥かぶらがみんなをかばって色々なことをしたところ。</li> <li>・泥かぶらが次郎兵衛のために干物を買ってきたところ。</li> <li>・次郎兵衛やこずえが泥かぶらに感化されて優しくなったところ。</li> <li>・泥かぶらが、人買いにつれて行かれそうになったところをかばったところ。</li> <li>・こずえが泥かぶらに大切なくしをあげたところ。</li> <li>・泥かぶらが「わーん」と泣いているところ。</li> <li>・次郎兵衛の手紙　・手紙を置いていなくなったところ。</li> <li>・最後湖にうつった顔を見るところ。　・かわいそうな子。</li> <li>・とても我慢強く、優しい人には素直。</li> <li>・何を言われてもされてもめげず、最後までとても優しくいい子。</li> <li>・[タイトルから] おじさんの話かと思った。</li> <li>・自分をいじめていた人にも優しくしてすごい。</li> <li>・純粹だからこそ少しひねくれていたが、いい子。</li> <li>・ひどいことをされたり言われたりしても耐えて、強く美しい子になった。</li> </ul>
<p>泥かぶらについて 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の弱いものの代わりに村を離れると言ったのはすごいと思います。</li> <li>・旅の老人が教えてくれたことをずっと守り、終わりになるにつれ優しく笑顔がすてきになったと思う。</li> <li>・顔がきたないし、髪の毛もきたなくて、友だちにいじめられてかわいそうと思った。</li> <li>・努力家でいい子。途中から素直になった。　・かわいそう。</li> <li>・強くて優しい人だと思った。　・優しそう。　・いいことを言う。</li> <li>・どんなことを言われても強く生きている。我慢強い。</li> <li>・どんな時でも笑顔で優しい素敵な美しい人。</li> <li>・一生懸命でかわいらしい。性格よすぎ。　・とても温かくいい人。</li> <li>・この人がいなければ、泥かぶらの人生は終わっていただろう。</li> <li>・努力をして人気者になったのはすごい。</li> <li>・作中唯一教える、諭す行動をとった人。謎。</li> <li>・優しくて穏やかで、心が広く素敵な人。</li> <li>・人の気持ちを考えられる人。　・見た目でも人を判断しない。</li> </ul>

<p>旅の老人について 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても優しいと思いました。</li> <li>・泥かぶらを勇気づけた良い人。</li> <li>・泥かぶらに美しくなる3つのことを教え、最初に泥かぶらを嫌わなかった。</li> <li>・泥かぶらをきれいにしようとしていたから優しい人だと思った。</li> <li>・この人のおかげで泥かぶらは変わった。</li> <li>・旅の老人のおかげで登場人物たちの性格が良くなったように思えた。</li> <li>・人を見ただ目で判断することがない。</li> <li>・いいことを教えてくれた人。</li> </ul>
<p>こずえについて 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泥かぶらのことを嫌い差別していて、父親の茶碗をわったが泥かぶらのかばってもらった。最初に泥かぶらを遊びに誘った人物。</li> <li>・自分が壊したのに、泥かぶらの責任にするのが最悪と思った。</li> <li>・こそくだなと思った。</li> <li>・あまり好きじゃない。</li> <li>・都合がいい奴。罪をなすりつけた。</li> <li>・性格が悪いブサイク。</li> <li>・泥かぶらをいつもバカにしている。お茶碗を割ったのを泥かぶらのせいにした。</li> <li>・泥かぶらに濡れ衣を着せ、自分が得しようとしたダメな人。</li> <li>・自分が悪いことをしているのを自覚して、泥かぶらに謝りに行ったのは良い。</li> <li>・自分が痛い目にあうのは嫌で、卑怯なことはするものの、律儀。</li> <li>・本当は優しい子（最後には謝りに来た）。</li> <li>・謝ったのは偉い。</li> <li>・最初はくそつたれだと思ったが、クシをあげたシーンで見直した。</li> </ul>
<p>次郎兵衛について 思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪人だったが優しく明るい人になったということは、泥かぶらのおかげではないかと思います。</li> <li>・泥かぶらの影響を受け変わった。</li> <li>・本当はいい人。</li> <li>・泥かぶらのおかげで少し改心できたみたいでよかった。</li> <li>・いやな人と思ったけど、良い人でやさしかった。</li> <li>・人をだまして生きてきたから人を信じない。「冷たい」人間だったが「暖かい」人に触れたことにより変わりだした。</li> <li>・人を疑うことしかできない人。泥かぶらに影響されて、優しくなりたいたいと思った。</li> <li>・泥かぶらの笑顔を見て性格を変えていった。</li> <li>・最初は悪いやつだったが、泥かぶらと出会って心も優しくなった。</li> <li>・泥かぶらに心を開いていった。</li> <li>・最後は少しまともになった。</li> <li>・悪意のせいで悪意を持つようになったような人。</li> <li>・ひねくれ者だが、泥かぶらといたことで心が温かく、優しくなった。</li> <li>・自分も泥かぶらのように生きることを決めたところに感動。</li> </ul>

<p>色づかい レイアウト</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜の月の光のグラデーションがよいと思った。人物の絵は独特だった。子どもにもわかりやすいと思った。</li> <li>・あざやかできれいだった。</li> <li>・とても空の色使いがきれい。色がはっきりしている。</li> <li>・堅苦しくない，柔軟な絵。 ・すごくきれい。</li> <li>・昔な感じがよく出ている。</li> <li>・雑な感じで，殴り書きのような絵。</li> <li>・油絵っぽく鮮やか，絵の具感が良い。</li> <li>・最後になるにつれ，明るい色調になり綺麗だった。</li> </ul>
<p>仕掛け等… 作品に意味を持た</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力すると変われること。 ・一つ一つの色使いが綺麗。</li> <li>・濃く，くっきりしている。 ・独特，個性的。</li> <li>・自分の心を磨いていくこと。 ・心についた泥。</li> <li>・人は心についた泥を洗い落としながら良い人になる。</li> <li>・一番醜いとされている者を主人公にする。</li> <li>・泥かぶらの顔が変わっていないのに笑った。</li> <li>・泥かぶらの優しい心で変わっていく周囲の人。</li> </ul>
<p>作者の思い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは，泥かぶらがいじめられているのは，かわいそうと思ったけど最後いい話だった。</li> <li>・人に優しくすると，周りの人も明るくなり優しくなると思い，自分も少し人に優しくしようと思いました。</li> <li>・人間は自らの意思によって，よりよく生きることができる。</li> <li>・人は変わるんだということを伝えたいと思った。</li> <li>・笑顔を毎日絶やさずに，周りに親切にすることで真心があらわれる。心や外見までもきれいになれる。</li> <li>・誰にでも罪悪感や善意が相応にあるものだ。</li> <li>・人に優しくするといい。また，優しくされるのもいい気分になる。</li> <li>・誰にでも親切にしよう。</li> <li>・人は変わる，見た目より内面から出るものが大切。</li> </ul>
<p>テーマについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泥かぶらはいいい人だと思った。 ・美しさ。</li> <li>・最初，泥かぶらと聞いてどういう意味なんだろうと思った。けれど，最後まで聞くと少し意味がわかった。</li> <li>・泥かぶらが段々と成長するところ。 ・心の中に潜む泥をとろう。</li> <li>・顔が全てではない。 ・深いテーマだと思った。</li> <li>・内面から出るもの，笑顔が人を変える。</li> <li>・善意は伝染する，みんな最初から悪いわけではない。行動で人は変わる。</li> </ul>

## 感想・意見等

- ・笑顔は大事。 ・BGMとあわせるのがすごかった。
- ・泥かぶらは、はじめいじめられていたのに、少しずつみんなから愛されていてすごくいい話になっていたのがすごいと思った。
- ・自分ももっと優しくなろうと思った。
- ・人間の本質には美しい真心がある。 ・人は変われる。
- ・私も泥かぶらのような誰にでもやさしくしてあげられる人になりたいと思いました。
- ・「いじめている」人が悪いのに「いじめられている」人の方から変わりだした。その行動を見た周りの人間も彼女に対して対応を変えた。負の連鎖が続くように、良いことも続いた。
- ・BGMがかかっている、寝そうになった。
- ・誰にでも笑顔で親切にしようと思った。
- ・昔はいじめられ、ばかにされ怒っていた泥かぶらが、優しく笑顔が素敵な女性に変わっていくところ。
- ・人に悪口や嫌がらせをする前に、今何をしたいのか考えて行動することを考えた。何事も心を洗うことをすれば、誰にでも優しくなっていくんだと思った。
- ・自分も何か変わったらいいなと思った。 ・とてもいい話。
- ・人間には悪いところばかりではなく、いいところもあると改めて分かった。
- ・こずえのくだりは都合が良すぎて現実離れしたものだったが、テーマには共感できるところがある。
- ・音楽を流しながら読んだのが心に残った。
- ・泥かぶらのように美しい心を持った人間に出会うことはない。
- ・泥かぶらは人間としてすごい。自分もそうになりたい。
- ・泥かぶらの純粋な心がすごく素敵。最初と最後に泥かぶらの顔や表情がとても変わって良くなっていた。
- ・読み手の声量や速度が完璧で聞き取りやすかった。

以上のようなワークシートの記述が、生徒達の思考のプロセスから生まれ、学習の記録として留めることができた。絵本作品への理解や気づきから表出したヒューマニティやナチュラリティといった社会性が生徒一人一人の人間性を育み、引いては、その体験が自己効力感の獲得に繋がっていることが読み取れる。

## 4 成果

名作と呼ばれる絵本童話に触れ、主人公や登場人物の生き方を追体験したり、心情に共鳴したりすることで感性を揺さぶるひとときとなった。また、この読み聞かせの時間は、生徒が幼少期に満たされていなかった母性へのフラストレーションを補うための授乳的時間ともなり、深く精神世界に入り込む作品鑑賞の時間となった。それらの取り組みが、自身への探求に心のベクトルが向いて行ったに違いない。

## 5 今後の課題

今年度は、生徒達自身の「内なるファンタジー」に視点を持たせ、3・4年次生「現代文B」履修者にはステップアップさせる計画で、「創作絵本」にチャレンジした。その取組は後述で紹介するが、やはり2年次生には、読み聞かせ絵本探求授業を実施し、各々の作品を、グループワークで、そしてホームルーム全体で対話によるセッションを行い、その対話によって「気づき」を分かち合うような絵本探求授業を試みた。目標としていた、他者との「気づき」の違いに新たな視点の発見に面白味を感じてくれたようである。そこから、生きることの意味や価値を見出していることが、ワークシートの記録から覗えた。

さて、本事業3年目を迎える次年度は、長編物語を読み解き、内観法を活用した取組みを試みたい。これも2年次の「国語総合」科目において、対話的・主体的深い学びに繋がる学習を展開したいと考える。

## ○「現代文B」科目における創作絵本授業のについて ～豊かな感性を育み、自己を表現する喜びを味わう～

### 1 目的・ねらい

目的としては、「現代文B」科目において、昨年度取組を推進してきた「読み聞かせ絵本探求」授業の発展的学習として、生徒たちが絵画や文章を表現することにより、豊かな感性と創造力を養い、思考し表現することを通じて達成感を味わうことや他者と共感することの喜びを獲得することをめざしたものであった。

ねらいとしては、昨年度、取組を行った「読み聞かせ絵本探求」授業の発展的学習として、本年度は、「世界で一冊の自分にしか表現できないオリジナル絵本をつくろう」をコンセプトに創作絵本を試みた。「現代文B」を選択科目として履修した3・4年次生7名は、思い思いのテーマで、本校図書館の絵本コーナーでそれぞれにモチーフとなる材料を探し、キャラクターやストーリーを考え、創作絵本づくりにチャレンジした。描画に関する指導は、本校で美術の授業を担当している岡本真貴子氏（一般社団法人日本美術家連盟会員）に依頼した。

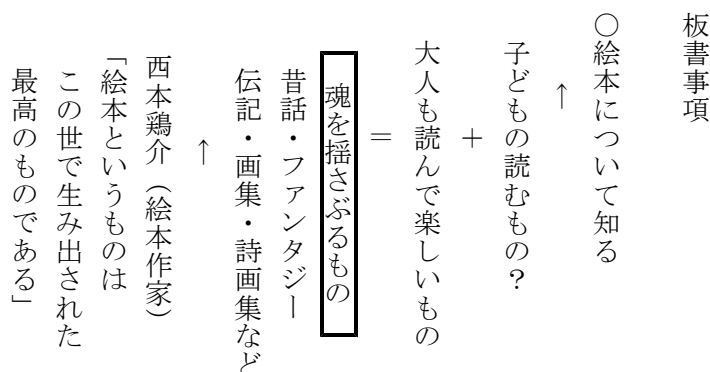
以下に、その実践内容を報告したい。

### 2 内容

絵本の創作に向けた絵画技能の向上と質の高い構成をめざし、世界に一つしかないオリジナル絵本を完成させ、プレゼンテーションを行い、創作絵本が完成した喜びを分かち合うとともに、各々の世界観を発表し合うことでそれぞれが新しい価値観と出会う契機とする。

(1) 取組の経緯

まず、授業者が創作絵本授業の第1次限目として、「絵本について知る」と題しての講義を行った。



ここで取り上げたのは、もう三十年ほど前になるが、徳島県学校図書館協議会の記念講演で絵本作家の西本鶏介氏が講師として招かれた。その折に授業者が拝聴し、記憶に残った言葉である。西本氏は、こうもおっしゃられた。「童話や児童書は、哲学や宗教よりも崇高なもの」であると。目から鱗が落ちる想いであった。生徒たちには、今から自分たちが取り掛かろうとしている作業は、「世界でたった一つしかない絵本」であると同時に、その作品を編む作業は尊くも崇高な営みであるという価値を認識した上で、創作に取り掛かってほしかったのである。

さて、実際に制作したプログラムは、次の通りである。

(2) 岡本真貴子氏指導による創作絵本プロジェクト授業の日程〔全8回〕

回	月日/教室	指導者	授業内容
1	9月19日 2限目 414教室	岡本 真貴子 氏	絵本づくりについて ・テーマを決める ・キャラクターを決める ・構成・あらすじを書く
2 ・ 3	10月10日 2限目 ・ 4限目 414教室	岡本 真貴子 氏	絵本づくりについて ・プロット（骨組み・構成）を 考える ・ラフ画を描く
4 ・ 5	10月31日 2限目 ・ 4限目 414教室	岡本 真貴子 氏	絵本づくりについて ・画材を選ぶ ・ラフ画を描く ・下書きを描く
6 ・ 7	11月21日 2限目 ・ 4限目 414教室	岡本 真貴子 氏	絵本づくりについて ・本描きを書く ・仕上げを行う
8	1月23日 4限目 414教室	岡本 真貴子 氏	完成したオリジナル絵本で ・プレゼンテーションを行う ・指導者からの講評を聞く

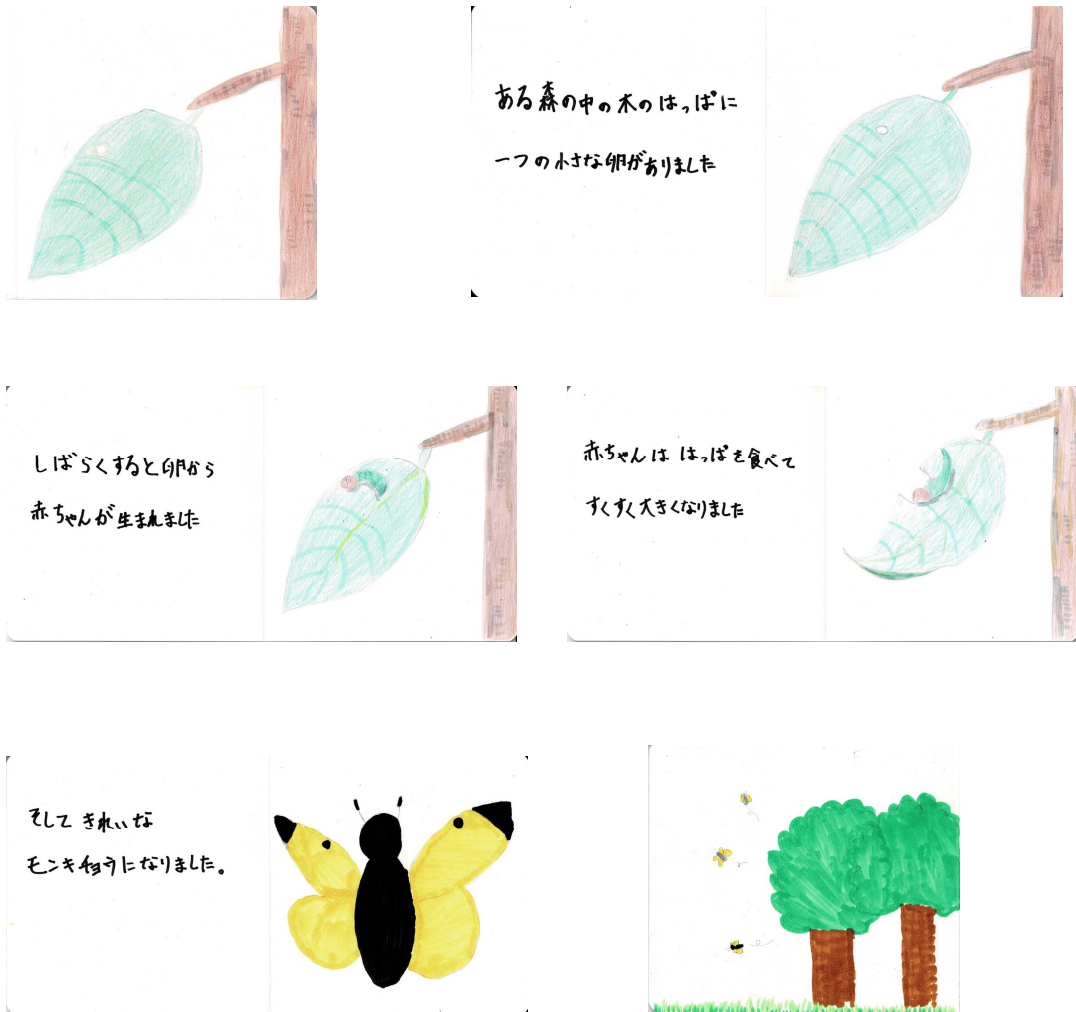


学習者のほぼ全員が、創作に入る前の時点では、「自分たちに、納得がいくような創作絵本ができるのだろうか」と半信半疑だった。しかし、各自の創作絵本に賭けた熱意と努力が、彼らを裏切らなかったようである。

### 3 成果

次に、実際の生徒たちによる創作作品を添付させていただく。

生徒作品No.1 題名『ちいさなひとつのいのち』

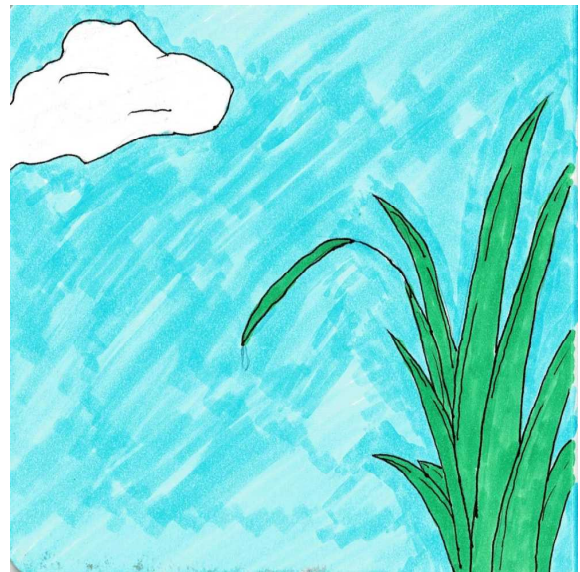


※ 上記作品は、エリック・カールの『はらぺこあおむし』にヒントを得たようだ。

生徒作品No.2 題名『あめあがりのあさに』

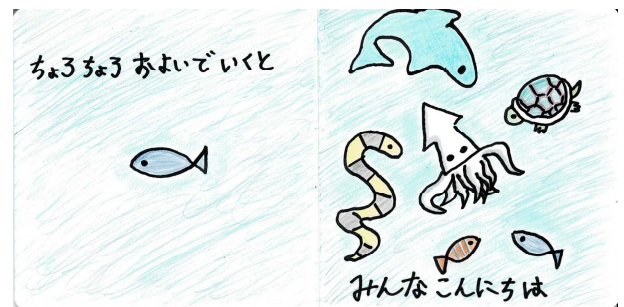
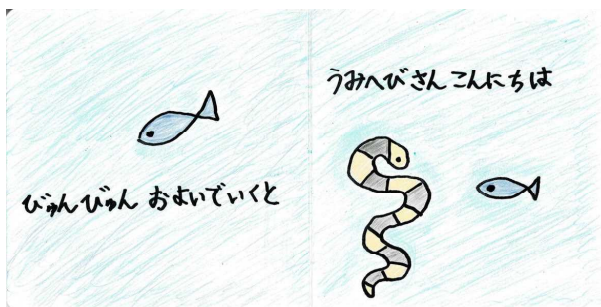
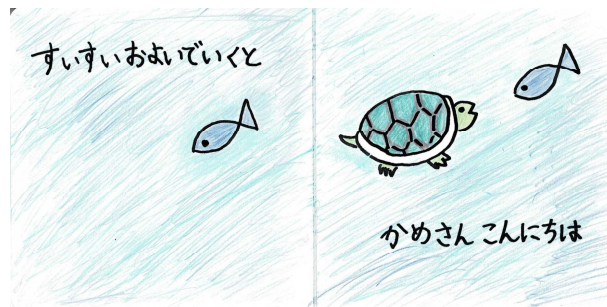






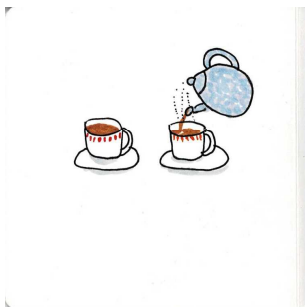
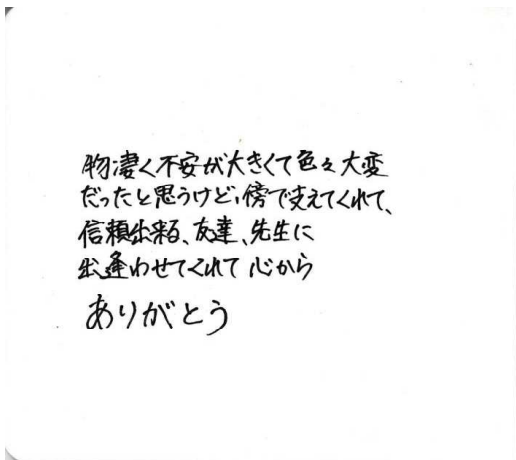
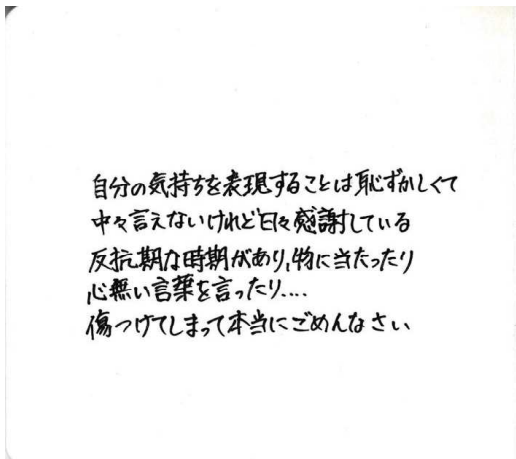
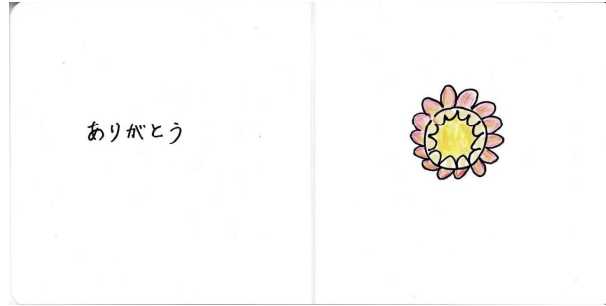
※ 上記作品は、自然に興味があり、日頃から生き物の観察に熱心な生徒である。

生徒作品No.3 題名『いろいろなさかなたち』



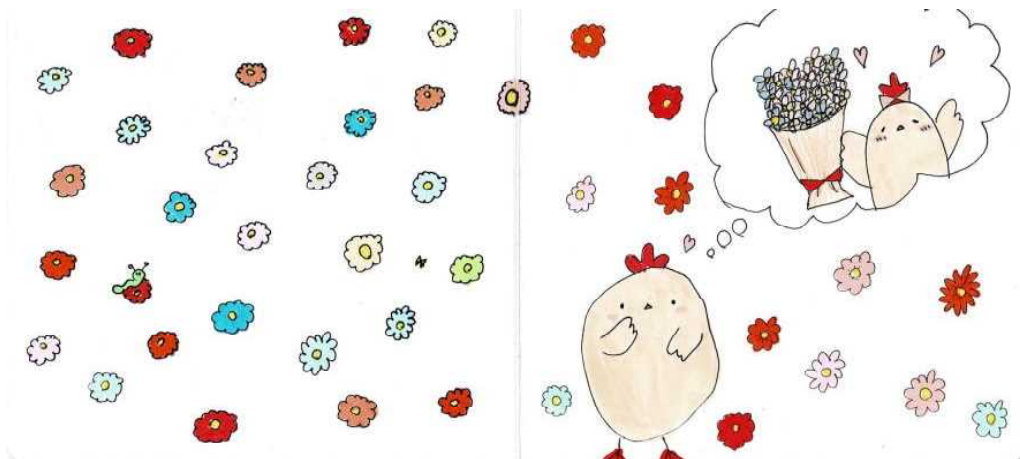
※ 上記は、なかやみわの『こんにちは！そらまめくん』にヒントを得た作品である。

生徒作品No.4 題名『伝えたい気持ち』

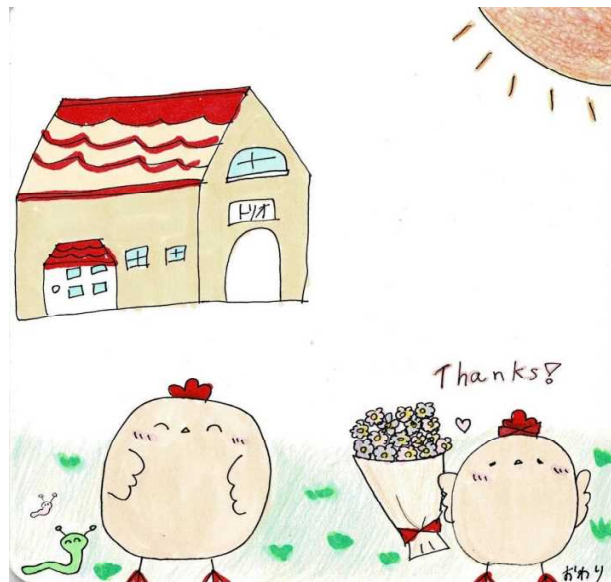


※ 上記は、自分を省みた時、支えてくれた周囲の人々に感謝の気持ちがあふれ、それを筆者が伝えたくて出来上がった作品である。

生徒作品No.5 題名『プレゼント大作戦!』

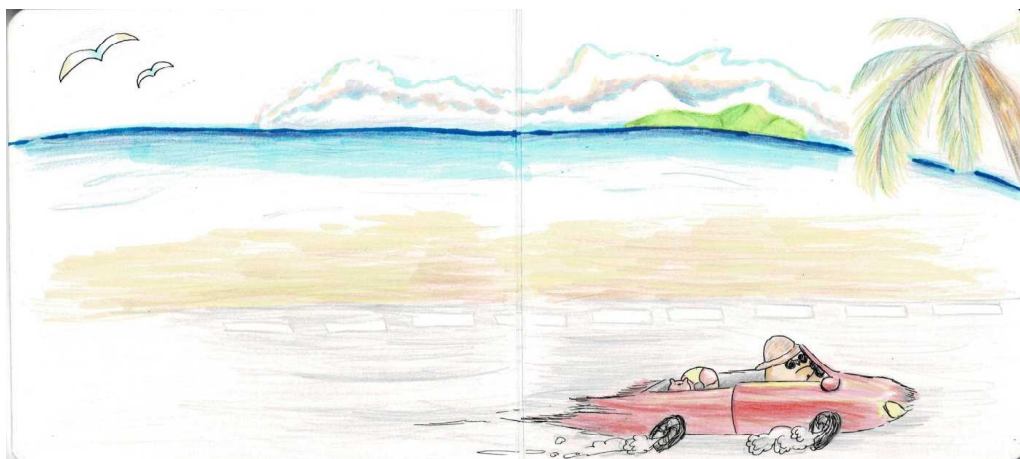


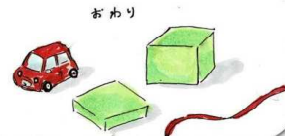




※ こんな風に、地道に手間暇を掛けて手作り上げたプレゼントだと、贈った側、贈られた側、双方が幸せな気持ちになる。

生徒作品No.6 題名『ウタタネ物語!』





※ うたた寝で楽しい夢を見ていたのに、飛んだハプニング。でも、相棒のお陰で夢の続きを玩具で再現できそうである。

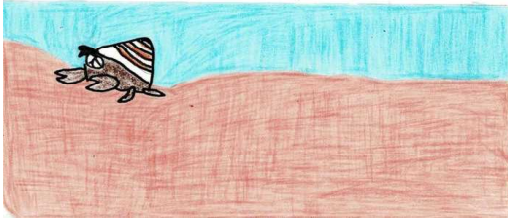
生徒作品No.7 題名『ヤドカリくんのいえさがし』





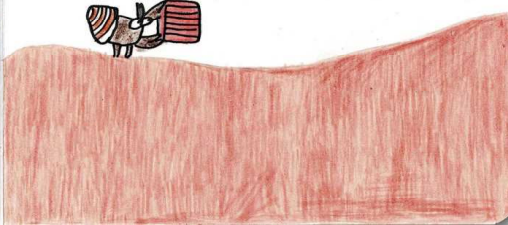
ひるねをしていた  
ヤドカリくん。  
ねぐるしくなって  
目がさめた。

「この家ももう小さく  
なってしまったなあ。  
もっと大きな家に  
ひっこさなきゃ。」



とっとこあるいて  
いくと なにか  
のフタがおちている。  
大きさをはかると…

入り口はいいけど  
まっすぐなフタでは  
ねじれたしほが  
ちょうしわるい。



またとっとこ  
あるいていくと、

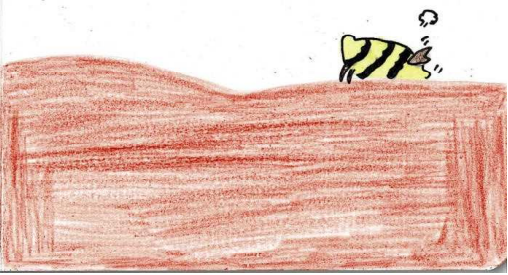
ヤドカリくんは  
ひたりの貝がら  
がおちている。

「これはいいや。」



ところ が  
はいろうと  
すると

「なんだ、うしろに  
あながあいてるじゃ  
ないか。」



つかれた  
からだ  
とっとこあるいて  
いくと

だれもすんでいない  
きれいな貝がらが  
みつかった。  
でも大きすぎる。



そのとき  
どこからか大きな  
ヤドカリが  
あらわれて

「こいつはいい。おれが  
もらっとくぜ。」  
そのヤドカリは、じぶんの  
貝をぬきすてて ひっこし  
ていった。





※ ひよんなことから、快適な家を見つけてしまうという作品でウィットの利いた作品。

#### 4 次年度への展望

本年度の創作絵本の取組で仕上がった作品は、授業者が予想していた以上の出来栄であった。それも2内容の(2)で提示させていただいた美術講師の岡本真貴子氏（一般社団法人日本美術家連盟会員）に、描画の技術を手解きいただいたことも、大きな力になったようである。

さて、いよいよ次年度は、本事業の計画の最終年度である。現時点では、絵本づくりから更に発展させる形で、生徒が完成させた創作絵本作品を、外部へ出かけて行っての「絵本の読み聞かせ」ライブを実施したいと考える。生徒の情操教育から市民との交流学习へと取組の高度化を図って参りたい。

## ② 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

### ○ソーシャルスキル向上指導について

#### 1 目的・ねらい

本校の生徒には人間関係をうまく構築することが苦手な生徒が少なからずおり、その背景には、自己肯定感が低く自己を認識することや他者の心情を適切に推測することができないという特徴がある。読み聞かせの体験をすることは子どもの感受性を豊かにしたり、想像力を高めたりする効果があり、読み手から聞き手に対して好感情を伝達する良い手段であるともされている。

生徒たちは評論文や随想などよりも物語文を好み、積極的に取り組もうとする傾向が見られる。また、小学校・中学校時代に読み聞かせの授業を体験し、そのことを良い思い出として記憶している者もいる。そこで「絵本の読み聞かせ」授業を受ける中で、生徒たちが絵本の世界を追体験して想像力を向上させ、他者の心情を適切に推測する能力を身につけること、それに加えて、穏やかな気持ちで自分自身を見つめる機会とすることによって自己肯定感を高めることをねらいとする。

## 2 内容

国語科の取組として夜間部生徒を対象に「絵本の読み聞かせ」授業を行った。講師（2名）は「とくしまお話を語る会」に依頼した。

## 3 取組

使用図書は次のとおりである

第1回 10月 7日 1限目 1・2年生

題名	作者・訳者
おてぶしてぶし	【わらべうた】
やさいのおなか	(作) きうち かつ
月がくれたきんか	(作) ルッサルト (絵) ヨゼフ・ウィルコン (訳) いずみ ちほこ
だごだごころころ	(再話) 石黒 なみ子 梶山 俊夫 (絵) 梶山 俊夫
木はいいなあ	(作) ジャニス・メイ・ユードリー (絵) マーク・シモント (訳) 西園寺 祥子
もりのなか	【仕掛け絵本】 (作) 柴田 愛子 『mono語り』より

第2回 10月30日 1限目 1・2年生  
2限目 3・4年生

題名	作者・訳者
どっどこどうぶつえん	(作) 中村 至男
1つぶのおこめ	(作・絵) デミ (訳) さくま ゆみこ
パンプキン	(写真・文) ケン・ロビンズ (訳) 千葉 茂樹
たべられたやまんば	【紙芝居】(脚本) 松谷 みよ子 (画) 二俣 英五郎
みんながうたう てんてんのうた	【仕掛け絵本】 (詩) 工藤 直子 『のはらうた』より

第3回 1月14日 1・2時限目 全学年

題名	作者・訳者
富士山うたごよみ	(作) 俵万智 (絵) UG サトー
しりとりレストラン	(作) 中川ひろたか (絵) 山本直孝
チュチュチュ	【わらべうた】
ねずみのよめいり	(絵) かないだえつこ (再話) おざわとしお
メアリー・スミス	(著) アンドレ・アユールン (翻訳) 千葉茂樹
冬の妖精 ジャック・フロスト	(著) カズノ・コハラ (翻訳) 石津ちひろ



## 【生徒の感想】

- ・絵本を読むのは久しぶりで楽しかったです。
- ・読み聞かせをしてもらってタメになりました。小さい頃に母や兄によく読んでもらったのを思い出しました。読み聞かせを聞いている内にまた読みたくなったので家に帰ったら読みます。
- ・人に読み聞かせをするという機会がなかったので、とてもいい経験になりました。
- ・読み聞かせは難しいと思いました。
- ・そもそも絵本に興味がなく正直、苦痛な時間になるかと思った。後半、学んだことお互い読み合っているいろいろ考えた。将来子供に読んで聞かせる時に役立てたい。
- ・絵本を見る機会がないので、良いと思った。
- ・絵本や紙芝居には、一つ一つに独特なストーリーがありどの絵本にも楽しみ方があることを改めて知りました。
- ・小説やマンガと違った良さがあったと思います。
- ・とっても楽しかったです。又来て欲しいと思いました。

## ルーブリック評価（令和元年度の結果（平均値））

### 読み聞かせの授業 アンケート

それぞれの質問について、1～5の中から自分に当てはまるものを選び、回答らん（ ）年 氏名（ ）に数字で答えてください。

※読み聞かせの授業を受ける前と、受けた後の二つ回答らんがあるので、両方とも答えてください。

回答らん

	5	4	3	2	1	読み聞かせの授業を受ける前	読み聞かせの授業を受けた後
読書について	授業を通して本への興味が広がり、好きなジャンルだけでなくいろいろな本を読んでいる。（様々なジャンルの本を読む）	読み聞かせの授業を受け、マンガや絵本以外の本も読みたいと思うようになった。（マンガや絵本以外の本も読む）	読み聞かせの授業を受け、絵本に興味が出てきた。（絵本への興味がある）	機会があれば、絵本やマンガを読みたいと思う。	小説やエッセイ、絵本以外にマンガも読むことがない。	2.41 (2.31)	3.41 (2.69)
興味・関心について	授業を楽しく受けることができ、登場人物の気持ちに共感したり、自分の生活と結びつけて考えたりすることができた。（本を読んで自分の生活に生かすことができる）	読み聞かせの授業を楽しく受けることができ、好きな場面など自分なりの感想をもつことができた。（本を読んで自分の感想をもつことができる）	読み聞かせの授業を楽しく受けることができた。（読み聞かせに興味がある）	読み聞かせの授業をまあまあ楽しく受けることができた。（読み聞かせに少し興味がある）	読み聞かせの授業は退屈であった。（読み聞かせに興味がない）	2.68 (2.69)	3.09 (3.06)
コミュニケーション能力について	聞いた話から感じたことを誰かに伝えることができる。	授業の間きちんと話を聞き、自分が楽しく聞いていることができた。（拍手を送る、おもしろい所では笑うなど）	授業の間、顔を上げて講師の先生の話がきちんと聞くことができた。	先生に起こされたり注意をされたりすれば、授業の間講師の先生の話聞くことができた。	授業の邪魔をしたり、または講師の先生の話聞いていなかったり寝てしまったりした。	2.95 (2.88)	3.59 (3.59)
授業への参加・積極性	自分から行動し積極的に活動(授業)に参加することができ、周りの生徒とも協力することができた。	自分から行動し、積極的に活動(授業)に参加することができた。	積極的にではないが、活動(授業)に参加することができた。	先生から促されたり話しかけられたりすれば活動(授業)に参加することができた。	ほとんど活動(授業)に参加をしなかった。	2.91 (2.88)	3.50 (3.44)

( )内は前年度

読み聞かせの授業を受ける前と後、共に全体的に昨年度より評価が高い。中でも「読書について」が1ポイントも上昇したことから「本」「読書」に興味関心が芽生えたように感じられる。

コミュニケーション力については、一生懸命に読んでくれる人に失礼がないという意識があり、「協力しよう」という態度が窺える評価ポイントであった。またこういった意識が積極的に授業に参加することに繋がった。



#### 4 成果

初めて経験する1年次と昨年経験した2年次が1つの教室で読み聞かせの授業を受けた。人数的に1年次生が多く、2年次と一緒に授業を受けることへの緊張感があり先生方の話の受け答えの声はいつも以上に小さかった。2回目は図書室で1、2年次が授業を受け、2時間目に3、4年次が同じ授業を受ける形を取った。1時間目の1、2年次の授業は2回目ということもあり、先生のクイズや問いかけ、手遊び等に適切に応えていた。2時間目の3、4年次の授業はクイズや問いかけにわざと間違え、笑いを誘ったりするなど、先生との掛け合いもあり雰囲気は良かった。またこの日は鳴門教育大学院生も授業に参加していたことと場所が図書室ということも功を奏したのかも知れない。

3回目は、全学年一斉での授業となったため先生の問いかけに小さい声で回答するのが精一杯という重い空気が流れていた。しかし2時間目にペアとなってお互いに読み聞かせをする際には、各々が選んだ絵本を先生の指導したとおり工夫をして読み、ワイワイ言いながらも一生懸命取り組んでいた。あちらこちらから「読むん上手い」と評価される声が聞こえ、にこやかに照れている生徒の姿があった。

最後にある教員が生徒全員に対して講師先生を真似て読み聞かせを行った時は、生徒の目は一点に集中し、何かを期待したワクワク感で口元が緩み、挿絵にツッコミを入れる教員の言葉に笑いが起き、教員にツッコミを入れる生徒にまた笑いが起きるなど全員が読み聞かせを楽しんでいるというキラキラした時間が流れているかのようであった。

#### 5 今後の課題

大勢の中に入ると萎縮したり、人見知り激しい生徒もおり毎時間、緊張から授業が始まる。どうすればスムーズに導入できるかを模索する中で1年次対象、1・2年次対象、全学年次対象などのように活発な意見が引き出せないかといろいろな組み合わせを考えて実施している。

また、短期間で集中して授業をすれば効果が上がるのか？最初から全員で授業を受けた方がいいのか？学年別にした方がいいのか？なども生徒の評価や状態、アンケート結果を踏まえて考えていきたい。

本年度	1年	2年	3年	4年	昨年度	1年	2年	3年	4年
1時間目	○	○			1時間目	○			
2時間目	○	○			2時間目	○	○		
3時間目			○	○	3時間目	○	○		
4時間目	○	○	○	○	4時間目	○	○	○	○
5時間目	○	○	○	○	5時間目	○	○	○	○

### ③ 富岡東高等学校定時制課程

#### ○購入図書について

##### 1 目的・ねらい

本校定時制には、ソーシャルスキルが不足していることが一つの原因となり、他校から転編入や再受検した生徒や、中学時代にいじめ等にあい長期欠席していた生徒がおり、学力にも生活面にも不安を持つ者が多い。

本校の養護助教諭は、教育相談・特別支援課の課員でもあり、生徒が様々な相談に来る。その指導に役立てるため、以下の図書を購入した。

##### 2 内容：次の2冊の図書を購入した。

- 1) 「女子の人間関係」から身を守る本（PHP文庫）
- 2) 相手もよろこぶ私もうれしいオトナ女子の気くばり帳（サンクチュアリ出版）

##### 3 取組

購入図書を参考にして、生徒の悩み相談等に対応した。

##### 4 成果

女子生徒が、生徒間でのコミュニケーションの齟齬などにより人間関係に悩んでいる等の相談に対して、養護助教諭が、今回の購入図書を参考にして、的確な相談・アドバイスを行った。この一連の指導が、毎学期後半に実施している「悩み・いじめアンケート」において関連項目の肯定的意見が上昇した一助になっていると考えられる。

※ 「悩み・いじめアンケート」 肯定的評価	H30			R1	
(1, 2, 3は学期, 質問文の数字は%)	1	2	3	1	2
私は、自分のことが好きです。	41	→ 50	→ 44	→ 47	→ 48
私には、得意なことや自慢できることがあります。	53	→ 66	→ 47	→ 61	→ 57
学校に来れば、ほっとしたり、楽しい気分になります。	35	→ 63	→ 31	→ 58	→ 48
困ったり悩んだりしたときに相談できる先生がいます。	59	→ 61	→ 58	→ 68	→ 61

##### 5 今後の課題

今回の養護助教諭の取組の成果をさらに生かすためにも、生徒の悩みの深刻さが増す前に、事前の策として、日頃の生活での勇気づけの言葉かけや自己肯定感・自己有用感を上げる生活指導を、職員全体で行うことが大切であることから、職員の全員が、指導力の向上を図るよう務めなければならない。

## ④ 名西高等学校定時制課程

### ○ソーシャルスキル向上講座について

#### 1 目的・ねらい

本校の生徒の多くは、真面目ではあるが自己肯定感が低い。他の生徒に対するコミュニケーションも積極性に欠けている。そのため、情操教育やソーシャルスキル向上の取り組みを強化し、まずは学校生活の中で主体的に行動する力を育成する。

#### 2 内容

本校生徒の情操を養い、ソーシャルスキルの向上につながると思われる教育活動を大学等からの講師派遣制度を利用し、全学年合同参加で実施する。

#### 3 取組

##### 1) 仲間といっしょにレクダンス

日時 令和元年10月23日(水)

講師 四国大学 生活科学部 教授 田村典子 先生

四国大学生 7名

リズム遊びや簡単なダンスなど、身体を通した様々なコミュニケーション方法を体験し、仲間とふれあい、表現力やプレゼンテーション力を養う。自己紹介でアイスブレイクした後、グループ作りゲームで気持ちを高め、最後は全員でレクダンスを踊り、互いの心を解放する。

【自己紹介】



【グループ作りゲーム】



【レクダンス】



##### 2) 邦楽の世界にふれる

日時 令和元年11月27日(水)

講師 松村エリナ 氏 服部恵美子 氏 沼野太恒 氏

日本を代表する琴と三味線の奏者を本校に招き、日本の伝統文化に触れる。和楽器の歴史や仕組み、裏話、鑑賞する際の楽しみ方や楽器の体験演奏を通して日常では味わえない体験をし、一流に触れることで、心の成長を促す。

【和楽器の説明】



【和楽器体験】



【箏曲鑑賞】



### 3) からだの栄養・こころの栄養 (予定)

日時 令和2年2月4日 (火)

講師 四国大学 生活科学部 教授 板東絹恵 先生

互いに反応し合い、生活の質に影響を及ぼすことのある、食行動とこころの側面についてさまざまな切り口で学ぶ。

## 4 成果

「レクダンス」では、四国大学生7名がその場の雰囲気支配し、楽しく和気あいあいのなか生徒たちの積極性を引き出してくれた。また、「邦楽の世界」では、一流奏者の演奏に、素人でもそのパフォーマンスの高さに圧倒され、本物に触れる素晴らしさを味わうことができた。

【自己評価表】

	4	3	2	1	1)の結果	2)の結果
傾聴力	目線を合わせながら、相づち等のリアクションをした	目線が合う、もしくはある程度リアクションをした	目線を合わせず、リアクションもあまりしなかった	他のことに気が散って話を聴くことができなかった	3.4	3.2
参加意欲	積極的に参加し、周りに対してよい雰囲気を作った	ある程度積極的に参加し、周りに合わせようとした	あまり積極的には参加しなかった	全然参加しようとしなかった	3.5	3.1
理解力	指示等を受けて率先して行動し、仲間にも説明できた	指示等を受けてある程度周りに合わせて行動した	指示等を受けてしやうがなく行動した	指示等を受けても行動しなかった	3.5	3.0
総合評価	自分のスキル向上に非常にためになる内容だった	自分のスキル向上にある程度ためになる内容だった	自分のスキル向上にあまりためにならない内容だった	自分のスキル向上に全然ためにならない内容だった	3.4	3.1

## 5 今後の課題

生徒たちは自分たちの興味関心に合った内容であれば、積極的に参加しようとする態度が見られたが、そうでない場合の取り組み方が課題である。次年度は生徒たちの意見を取り入れ、より積極的に参加できるようなものを企画立案していく。



### 3) 学力向上支援

#### ① 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

○多くの人の関わりにより学習機会を増やす夜間部の学力向上支援

##### 1 目的・ねらい

夜間部の学力向上支援のねらいは、大きく三つに分けることができる。一つは基礎学力の向上を目指すことである。高等学校の学習内容の理解に必要な学力の定着を図るとともに、一般常識や人間関係を築く力等の社会生活をしていくために必要な力を養い、自ら学ぶ態度を育てることを目標とする。

二つ目は義務教育段階の学習内容の再学習を行うことである。様々な原因により小・中学校での学習内容を身に付けることができている生徒に対し、高等学校の学習内容の理解に必要な基礎学力の定着と並行して行う。

三つ目は教員以外の大人と学習する機会を設けることでコミュニケーションや交流を通して、信頼が生まれ、悩み相談や進路相談につなげていく。また自分の将来像を考える契機にもなり、学習意欲や勉強に向かう意識向上を図ることに結びつける。

##### 2 内容

義務教育段階の国・数を中心にして学び直しを行う学校設定教科「マルチ基礎」、社会人・職業人としての基礎を学ぶ学校設定教科「職業」および放課後や長期休暇中の課外時間における自主学習時間「ハッピータイム」において、一人一人の生徒の実態に応じた支援を継続して行っている。特に「マルチ基礎」および「総合的な学習・探究の時間」の授業では夜間部の教員に加えて鳴門教育大学大学院生（臨床心理士養成コース）や支援相談員が、一人一人の生徒に寄り添う形での学習支援を行っている。

##### 3 取り組み

学校設定教科「マルチ基礎」は、週1時間（1単位）の科目として1～3年次の生徒を対象にホームルーム主体の授業となっている。各ホームルーム10名前後の生徒に対し、4～5名の指導者が教室に入り学習指導を行っている。各ホームルームとも多様な生徒がいるため、マンツーマンで学習指導をしなければならない場合もあれば、1名の指導者が2～3名の指導を行う場合もある。学習指導で注意していることは、できないことの再確認にならないよう、自分で「できること」の実感と「教えてもらってできるようになること」の達成感を各生徒に経験してもらうことを目指している。さらに小・中学校での学習時に理解できなかったことに対しては、異なるアプローチにより理解を目指すよう工夫している。

学校設定教科「職業」は、1年次に「職業基礎A」（1単位）、2年次に「職業基礎B」（1単位）を学習している。2年間の学習により社会人・職業人としての基礎を身に付けられるよう指導している。先に挙げた「マルチ基礎」と同様に各ホームルームとも複数名の指導者が関わるようにしている。「職業基礎A」および「職業基礎B」の学

習生徒全員が「夜間部カフェ」の日替わり当番を行っており、そこでは多くの教員や生徒がコミュニケーションを図ることで社会生活を営む力を培っている。

自主学習時間「ハッピータイム」は全員の生徒に呼びかけ、自らの目標に向かい、自ら学ぶ態度を育むことを目指している。「ハッピータイム」での学ぶ内容や方法は多様であり、生徒の実態に合わせて適切に教員が対応するようにしている。

#### 4 成果

「マルチ基礎」や「職業」の授業での学習支援を行うのは、担任・副担任だけでなく、比較的年齢の近い大学院生がいるため明るい雰囲気の中で授業を進めることができる。マンツーマンに近い形で指導できるので、わからないものをわからないと言うことで、生徒は学び直しをスムーズかつ効果的に行うことができている。また、教員、支援相談員および大学院生とのコミュニケーションにより、基礎学力の向上だけでなく、社会人として必要な力を養うきっかけとなっている。さらに、国語・数学の授業との連携により、生徒の学習意欲の向上および基礎学力の向上が実感できる。

#### 「マルチ基礎」及び「職業基礎」の評価

※下の欄に年度当初（5月頃）と年度末（2月頃）の自分を評価1～5を記入してください 学年 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

項目 評価	マルチ基礎				職業基礎		日頃の取り組み	
	国語(漢字)考え解く力	数学を考え解く力	マルチ基礎の取り組み方	相談支援員や大学院生とのコミュニケーション	職業基礎についての興味関心	職業基礎への取り組み方	他者との関わり	自分を知る
1	自分で解くことが20%未満	自分で解くことが20%未満	必要なことは懸命に取り組めない。	自分の方から話しかけない。	授業内容が社に出て役に立たない。	自分の将来について興味がない。	話しかけられても返事が十分でない。	気分によってムラがある。
2	自分で解くことが40%未満	自分で解くことが40%未満	友達や先生が近くにいたり質問できる。	相談支援員、大学院生から話しかけられる。	仕事をしたいが興味がない。	授業態度は受け身で内容の理解が浅い。	親しい人とは話しかけられる。	何をすべきかわからないが、行動に移せない。
3	自分で解くことが60%未満	自分で解くことが60%未満	積極的に友達や先生に質問できる。	相談支援員、大学院生と話しかけられる。	社会に出た知識が役に立っている。	知識を習得する意欲がある。	必要な場面では話しかけられる。	先生や先輩から指示を受けている。
4	自分で解くことが80%未満	自分で解くことが80%未満	辞書を引くなど自分でできる。	相談支援員、大学院生と話す機会がある。	マナーや一般常識を知りたい。	自分の進路について考えている。	校内の生徒と話しかけられる。	自分で学習計画を立てている。
5	自分で解くことが80%以上	自分で解くことが80%以上	テキストや復習カードなどを使って復習している。	相談支援員、大学院生と関係が深くなった。	学習内容を理解し、生活に活かしている。	授業内容を応用して日常生活に取り入れている。	地域の人や職場の社員と交流している。	将来の目標を掲げ、行動している。
年度当初	2.92	2.85	2.77	2.69	2.52	2.85	2.77	2.91
年度末	3.00	2.69	3.23	3.54	3.54	3.54	3.54	2.92

#### 【昨年度末に実施したルーブリック評価】

年度当初「国語（漢字）を考え解く力」のポイントが高く2.92ポイントであった。これは、社会に出て必要だということを知っているからで、わからない時は辞書を引くなどして解決していくこともできるため一生懸命取り組んでいる。

「数学を考え解く力」については年度当初2.85ポイントだったが、年度末には2.69ポイントと下がった。これは、当初計算問題中心だったものが、分数の計算や鶴亀算、濃度の文章題など難しくなったためであり、バランスのいい問題形式が数学嫌いを助長させない方法かも知れないことを改めて感じた。

また、生徒は大学院生とのコミュニケーションを楽しみにしていることも数値が大幅に上昇していることから読み取れる。

## 5 今後の課題

夜間部の学力向上支援の課題の一つは、夜間部における学力とは何かをさらに分かりやすく明確にし、すべての指導者で共有することである。また、生徒の学力向上を目的として設定している学校設定教科とその他の教科とのさらなる連携により、夜間部の生徒にぜひ身に付けてほしい学習内容を確実に定着させることができるようにしたいと考えている。

## ② 徳島中央高等学校通信制課程

### ○多様な学習形態の提供による学習支援

#### 1 目的・ねらい

徳島中央高等学校通信制課程には、中学校卒業後すぐ入学してくる者、中学校卒業から数年経過して入学してくる者、他の高等学校から転編入学してくる者と本校入学までに様々な経歴を持つ生徒が在籍している。また、高校卒業の資格を取得するため、生涯学習を志すため、3年間での高校卒業を目指している他の定時制課程に在籍する生徒が定通併修により不足単位を本課程で取得するためなど、在籍生徒の新・転編入学目的は多種多様である。さらに、過去に、いじめや不登校、問題行動を経験した生徒、発達障害などにより特別な支援を必要とする生徒など、全日制課程や定時制課程の高校では学ぶことが困難であるという理由で新・転編入学してくる生徒が多数在籍している。これらのような、多種多様な経歴や入学動機をもつ生徒が学ぶことのできる学習環境の整備が必要となっている。特に、近年、発達障害のある生徒や不登校を経験した生徒など、何らかの支援が必要な生徒の比率が年々増加する傾向にある。中には、小学校高学年から中学校までほとんど学校に登校できていない生徒も見られる。

そのため、最近の5年間では毎年80～100名が入学するものの、卒業生は毎年35～44名に留まっている。また、今年度は、在籍生徒の約33%が5年以上本課程に在籍している。仕事との両立で学習時間が確保できない、不登校傾向があり学校に足が向かないなど、理由は様々ではあるが、一人一人の生徒は卒業に向け、自分のペースで学業に励んでいる。

このような中で、一人でも多くの生徒が卒業できるよう、つぎのような取組を行っている。

## 2 内容

本校通信制課程では、今年度新たに導入した取組はないものの、多種多様な生徒が学びやすい学習環境を整えるため、すでに実施している取組の内容を見直し、つぎのような学習形態を提供し、実践を行っている。

- ① 義務教育内容を学び直す学校設定科目(ベーシック国語・数学・英語)の開講
- ② 鳴門教育大学大学院生による個別指導
- ③ NHK高校講座の活用促進(レポートに放送内容の取り入れ、面接指導の代替)
- ④ 学習支援制度による個別指導
- ⑤ 県南部、県西部、県北部の3地区での出張スクーリング
- ⑥ 平成29年度から導入した2学期制の中で、前期または後期の半期で履修を完了できる科目の設置

## 3 取組

### ① ベーシック科目について

平成26年度より英数国の3教科において、中学校時代の学び直しのための学校設定科目を開設した。義務教育段階の内容が学習でき、年12回の面接指導と年6回のレポート提出により履修修得条件を満たせば2単位が修得できる。

### ② 鳴門教育大学大学院生による個別指導について

特別な支援を必要とする生徒への学習支援として、希望する生徒に対して、鳴門教育大学大学院生による学習支援を行った。また、今年度は希望者がいなかったが、学生ボランティア(徳島大学生)による学習支援制度もあり、本課程生徒への学習支援には、大学生や大学院生の協力は欠かせないものになっている。

### ③ NHK高校講座の活用促進について

レポート課題の一部にNHK高校講座の放送内容と関連したものを取り入れたり、面接指導時において、NHK高校講座の紹介をしたりすることにより放送視聴の促進を図った。

### ④ 学習支援制度について

生徒への案内物、ホームルーム担任や科目担任による広報を、年度当初より積極的に行い、活用を促した。毎週月曜日に学習支援日を設定し、原則として、事前申込(予約)を必要としているが、昨年度から生徒の利便性を考慮し、教員側で都合さえつければ、月曜日以外でも、また、事前申込(予約)なしでも利用できるようにした。

### ⑤ 出張スクーリングについて

県南部、県西部、県北部の遠隔地に居住する生徒で、近隣地での面接指導を希望する場合、希望する科目について、それぞれの会場へ出張し、特別に支援を行った。

### ⑥ 2学期制半期単位認定について

1年間通して学習活動が困難な生徒のために、半期(前期または後期)で単位を認定する科目を設置した。

## 4 成果

### ① ベーシック科目について

ベーシック科目は、義務教育での学習内容を確認かつ復習することと高等学校で本格的に学習するための準備と練習を行うことを目的として開設した科目である。履修生徒は、基礎基本を確認するとともに自らの実態を知ることができ、自分のペースで学習を進めていくことができた。分かる喜びは生徒自身の学習意欲向上と自己肯定感につながり、開設効果は非常に大きかったと思われる。

### ② 鳴門教育大学大学院生による個別指導について

大学院生によるピアカウンセリング的なコミュニケーションと細やかな学習指導を行った。少しずつではあるが、生徒自身の対人関係を始めとするソーシャルスキルの向上と苦手科目の克服ができた。

### ③ NHK高校講座の活用促進について

レポート添付のアンケート及び視聴報告提出生徒数から算出した視聴人数はのべ41名、視聴科目数はのべ228科目であった。昨年度に比べて、視聴人数は10名増、視聴科目数は99科目減となった。今年度のスクーリングへの出席率は昨年度並みであったが、今年度も一昨年度に比べて、10%程度上昇しており、2年連続で高い出席率を維持できた。その分、昨年度同様、NHK高校講座視聴生徒数や視聴科目数は少なくなったが、この制度は生徒に浸透かつ定着してきたものと思われる。

### ④ 学習支援制度について

学習支援制度を活用した生徒は延べ428名であった。昨年度に比べて、153名増と大幅な増加となった。また、利用者数はこの3年間で、約2.6倍増となった。この制度は、レポート作成や生徒自身の学力向上に有効であるという認識が、活用した生徒に浸透してきた結果であり、生徒の学習意欲喚起に効果的な取組であったと思われる。

### ⑤ 出張スクーリングについて

本課程は県下唯一の公立通信制課程の高等学校であり、規定された面接指導を受けるために片道50Km以上の距離を通学する生徒もいる。県南部、県西部、県北部の3ヶ所で前後期各2回ずつ計6回の面接指導を行い、遠隔地から通学してくる生徒たちに対して、通学の負担を軽くすることができた。また、出張スクーリングは、個別指導に重点をおいた面接指導を行っており、より効果的な個別指導もできた。本校以外の場所にこのような面接指導の場を設けることは、不登校傾向の生徒にとって、スクーリング出席のきっかけにもなり、正規のスクーリング出席（登校）につながるといった相乗効果もあった。

### ⑥ 2学期制半期単位認定について

半期での学習活動を成果として認めることにより、卒業に対するモチベーションが維持でき、意欲的に学習に取り組む姿勢が身についたと思われる。また、一昨年度から前期末での卒業制度を導入したが、今年度も前期末卒業該当者はいなかったものの、一昨年度は、2名が前期末（9月末）で卒業した。さらに、昨年度から導入した後期転編入学制度では、今年度も昨年度と同数の3名が後期転入学を果たした。2年目を迎えた後期転入学制度も利用生徒の高校在籍期間短縮に一定の成果があったと思われる。

## 5 今後の課題

### ① ベーシック科目について

この科目は、主として新入学生徒を対象に設定された選択科目であり、現在は本人の希望により履修させている。入学にあたり、各教科の学力審査を実施していない本課程では、生徒の学力を十分把握することが困難である。本来、履修が望ましいと思われる生徒の中でも、実際に履修出来ていない生徒も少なからず存在する。このような生徒の履修率向上と単位修得率向上が今後の課題である。

### ② 学生ボランティアによる個別指導について

この制度は、引込み思案で質問ができない生徒や不登校などにより勉強の仕方がわからず、学習習慣が身につけていない生徒にとっては、有効な支援方法であると思われる。また、コミュニケーション面で自信がない生徒にとっては、学習支援の他にも、ソーシャルスキルを向上させるきっかけにもつながっている。来年度以降も引き続き、鳴門教育大学や徳島大学に協力をお願いしたい。また、年度当初のできるだけ早い時期から利用できるような方策の検討も今後の課題である。

### ③ NHK高校講座の活用促進について

レポート課題の中にNHK高校講座の放送内容と関連したものを取り入れることが困難であったり、講座放送日時と課題作成時期がズレたりする科目がある。しかし、Eテレビ等で興味深い番組も数多く放送されており、レポートや面接指導をきっかけに、こうした放送を観たという生徒も少なからず存在し、多様な学習機会の提供には有効な取組であると思われる。来年度以降も継続していきたいと考えるが、講座内容を面接指導の中で紹介するなど、活用促進の方法を検討していきたい。

### ④ 学習支援制度について

活用した生徒は確実にレポート作成に成果が現れ、学習意欲向上にもつながっている。一方、まだ活用したことがない生徒も存在し、このような生徒に対して、活用を働きかけ、利用者数を増やすことが、今後の課題であると思われる。あらゆる機会を通して、活用を促す働きかけをしていきたい。

### ⑤ 出張スクーリングについて

県下各地の遠隔地より通学する生徒は減少傾向にあり、このような事情で本制度を活用する生徒は減ってきた。しかし、不登校生徒が活用する事例は今後ますます増加することが予想される。実施場所や実施方法等を工夫し、利用生徒にとって、学習効果があがるような方策を検討していきたい。

### ⑥ 2学期制半期単位認定について

一昨年度新たに、半期で無理なく目標が達成できるよう、半期単位認定科目を設定し、3年かけて、前期末卒業制度や後期転編入学制度を整備したが、今後、生徒の履修状況を検証し、この制度をさらに充実発展させていきたい。

### ③ 富岡東高等学校定時制課程

#### ○購入図書について

##### 1 目的・ねらい

進学や就職に生かすために、様々な資格や検定を取得させる。また、複合的な効果として、これらの資格や検定の取得により、生徒が自分に自信を持ち、よりより生活を送ることが期待される。これらのねらいのため、以下の図書購入を計画した。

##### 2 内容：次の5冊の図書を購入した。

- 1) 平成31年度 全商情報処理検定模擬試験問題集 3級（実教出版）
- 2) 平成31年度 全商情報処理検定模擬試験問題集 2級（実教出版）
- 3) 平成31年度 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 3級（実教出版）
- 4) 平成31年度 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 2級（実教出版）
- 5) 平成31年度 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 1級（実教出版）

##### 3 取組

購入した図書に関連する教科・科目の授業や、課外での個人指導で活用した。

※ 関連する教科・科目の授業：1年「社会と情報」、2年「情報の科学」、  
3年「情報処理」（選択授業）、4年「ビジネス情報」（選択授業）

##### 4 成果

全商「ビジネス文書実務検定」の1級に、4年生の生徒が1人合格した。

また、これらの一連の指導が、「学校評価(生徒)アンケート」において、関連項目の肯定的評価が前年度より上昇した一助になっていると考えられる。

※ 「学校評価(生徒)アンケート」における肯定的評価	H30	R1
本校では、個人の興味・関心や能力にあった選択授業を行っている。	51%	→ 65%
自分は授業に積極的に取り組んでいる。	52%	→ 54%
本校では、一人ひとりの良さや可能性を伸ばすことに努めている。	65%	→ 72%
教員は、熱心に日常の教育活動に当たっている。	61%	→ 72%

##### 5 今後の課題

資格や検定に取り組むことで学力が向上するとともに、進学や就職に有効であるという直接的な実利に関することを生徒に伝え受験刺激をするとともに、受験者数が少ないのは、学力に対する不安や自己肯定感が低いことなどが原因として考えられることから、それらを向上させる支援も受験刺激と同時に必要である。

## ④ 名西高等学校定時制課程

### ○資格取得に向けた図書購入について

#### 1 目的・ねらい

本校の生徒は、小中学校時代において何らかの理由で不登校を経験したものが少なからずいる。そのため、真面目であるが基礎学力が不足していることが多い。資格取得を目指すことで学習意欲を向上させ、基礎学力の向上につなげていく。

#### 2 内容

高校生が取得できる資格は、さまざまなものがあるが、一番身近で取り組みやすい日本漢字能力検定の資格を取得させることとした。検定は級別にわかれているので、そのための学習教材図書を購入し授業等で活用する。

#### 3 取組

国語の授業で毎時間、自分が選択した級の漢検の問題演習に取り組み、問題形式に慣れさせる。受検希望者は、1年に3回（7月・11月・1月）、本校で全日制の生徒とともに希望する級を受検する。その対策として、始業前や放課後に購入した図書を活用して補習授業と問題演習をおこなう。また、長期休業中や休日にはプリントを配付し、自主学習をさせる。

#### 4 成果

今年度、第1回と第2回の合格者数は3級0名（受検者2名）、準2級2名（4名）であった。第3回では2級に2名、3級に6名が受検し、結果待ちである。

#### 5 今後の課題

希望者のみの受検のため、のべ12名にとどまった。今後は受検者数の増加に向けて、生徒への呼びかけ、国語の授業での取扱いの継続、受検料の補助などを検討していく。また、漢字検定はさまざまな級があるので、生徒の実態に合った受検級を指導する必要がある。



## ⑤ 鳴門高等学校定時制課程

### ○購入図書について

#### 1 目的・ねらい

本校のほとんどの生徒は、学習意欲が低く、基礎学力も定着していない。就職試験で、一般教養や適性検査で点数が取れず、不採用となる生徒が少なくない。進学する生徒も、進学先で基礎学力は必要である。進学や就職の試験時に必要とされる基礎学力定着に向けた学習のための図書を購入する。

#### 2 内容

次の2冊の図書を購入した。

- 1) 一般常識基本ワーク (増進堂)
- 2) 基本ドリル一般常識&SPI (増進堂)

#### 3 取組

2冊の問題集を出題範囲とした、年間5回(1回3教科)の基礎学コンペ(実力テスト)をホームルーム活動の時間帯で実施し、全生徒の基礎学力を定着させる取り組みを行う。国語、社会、数学、理科、英語の教科担任全員が、授業中に指導する。

令和元年	5月13日(月)	国語, 社会, 数学	4限	ホームルーム活動
	6月17日(月)	数学, 理科, 英語	4限	ホームルーム活動
	10月7日(月)	国語, 社会, 英語	4限	ホームルーム活動
	11月25日(月)	国語, 数学, 理科	4限	ホームルーム活動
令和2年	1月20日(月)	社会, 理科, 英語	4限	ホームルーム活動

#### 4 成果

9月16日以降の1回目受験で、就職希望者6名中、大企業を希望する1名だけが不採用だった。その生徒もその後すぐに次の大企業を受験し、内定となり、就職希望者は全員内定となった。

#### 5 今後の課題

現在の1年生から3年生の生徒の中で、大企業を希望する生徒がたくさんいると推測される。大企業は面接だけでなく、一般常識、適性検査、作文を実施するところが多いため、今後そのような生徒に対してさらなる指導が必要である。

## 4) 特別な支援を必要とする生徒への指導

### ① 徳島中央高等学校定時制課程昼間部

#### 1 目的・ねらい

特別な支援を必要とする生徒を対象とし，特別支援学校に教育相談等を依頼し，巡回相談員に授業を見学してもらう。そして，授業や生徒に関して適切な支援や指導法などを助言してもらい，授業や指導方法の改善，生徒理解を目的とする。

#### 2 内容

対象生徒	ソーシャルスキルトレーニングA（午前）	2年次生	2名
	ソーシャルスキルトレーニングA（午後）	2年次生	2名
	キャリアアップトレーニングA（午前）	3年次生	2名
	キャリアアップトレーニングB（午前）	3年次生	1名
	キャリアアップトレーニングA（午後）	3年次生	2名
	キャリアアップトレーニングB（午後）	3年次生	3名

#### 3 取組

それぞれの授業を1時間見学してもらい，その後協議の時間を1時間程度設ける。そして，巡回相談員から指導・助言をいただき，それらをもとに授業改善を図る。本校は今年度「専門家によるコンサルテーション」を行っており，大阪樟蔭女子大学の田中准教授に学期に1回来校していただき，指導・助言を受けた。また，月1回程度みなと高等学園の巡回相談員の方を派遣してもらい，生徒の支援に関する協議や教育相談を行った。それとは別に鳴門教育大学附属特別支援学校に教育相談を依頼し，巡回相談員を派遣してもらった。

4月22日（月）【授業見学】	キャリアアップトレーニングA（午後） 「自分データ作り」
【協議】	鳴門教育大学附属特別支援学校 巡回相談員1名
6月26日（水）【授業見学】	キャリアアップトレーニングB（午後） 「とくしま中央一座においての人形劇」
【協議】	大阪樟蔭女子大学 田中善大先生 みなと高等学園 巡回相談員2名
8月26日（月）【教育相談】	鳴門教育大学附属特別支援学校 巡回相談員1名 キャリアアップトレーニングA（午後）の2学期の 授業について事前打ち合わせ

- 9月17日（金）【授業見学】 キャリアアップトレーニング A（午前）  
「デジタル紙芝居」
- 【授業見学】 キャリアアップトレーニング A（午後）  
「わたしのトリセツ」
- 【協議】 大阪樟蔭女子大学 田中善大先生  
みなと高等学園 巡回相談員 2名
- 11月7日（木）【教育相談】 みなと高等学園 巡回相談員 2名
- 12月17日（火）【教育相談】 みなと高等学園 巡回相談員 1名
- 1月14日（火）【授業見学】 キャリアアップトレーニング A（午前）  
「調理実習」
- 【授業見学】 キャリアアップトレーニング A（午後）  
「落語のオチを考える」
- 【協議】 大阪樟蔭女子大学 田中善大先生  
みなと高等学園 巡回相談員 2名

2月にもみなと高等学園巡回相談員と協議を実施予定。

#### 4 成果

田中先生から「話し合いシート」と「行動チェック表」を提案していただき、2学期から活用を始めた。「プロフィールチェック表」から生徒の課題を見つけ、観察可能な具体的行動を短期目標とする手法や「行動チェック表」の結果をグラフ化する視覚的援助をしていただいた。そして、行動分析学のABCの図を用いた考え方など数多くの助言をいただき、生徒の行動改善状況の把握や目標の適切さを検討しやすくなることができた。また、「行動チェック表」を活用することによって、HR担任と密に連絡を取るようになり、支援体制が強化された。このようなことから、生徒の行動がポジティブな方向に変容するなど望ましい行動を増えたと考えている。巡回相談員の方にも多くのサポートをしていただき、特別支援教育の視点でのアドバイスや短期目標や長期目標の設定ポイントなどの説明は非常にわかりやすく役立った。

#### 5 今後の課題

「通級による指導」も2年目を迎えた。しかしながら、新たな課題が出てきたこともあり、ケース会の存在は非常に頼りとなるものであった。2学期からは、月に1回程度ケース会を行うことができたため、生徒にとっても有意義な授業が実施できたように感じている。来年度も継続するためには、やはり巡回相談員との日程調整が重要となると考えている。定期的に来ていただけるように事前の日程調整を行い、これからはしっかりと連携していきたい。

## ② 富岡東高等学校定時制課程

### ○購入図書について

#### 1 目的・ねらい

本校定時制には、生活や食事が不規則な生徒が少なからずいる。生徒が規則正しい生活習慣や食生活の大切さを知り、健康で健全な日々を過ごすことができるよう、養護助教諭が生徒の保健指導の際に活用するとともに、同助教諭が発行する「保健室だより」の作成のために、以下の図書購入を計画した。

#### 2 内容：次の3冊の図書を購入した。

- 1) 食育クイズ&ワークシート集（食育・給食だよりCD-ROMシリーズ）1,944円
- 2) CD-ROM付き年中使える!きちんと伝わる!楽しい!ほけんだよりイラスト&文例集（ナツメ社保育所ブックス 中野康伸著）2,700円
- 3) ボールペンでかたん!プチかわいいイラストが描ける本（コツがわかる本!）（メイツ出版）1,296円

#### 3 取組

養護助教諭が生徒の保健指導の際に活用するとともに、同助教諭が発行する「保健室だより」に、購入図書の内容を紹介した。また、購入図書を生徒や職員がよく目につくところに配置した。

#### 4 成果

「保健だより」に、図やイラストを挿入することにより、より分かりやすく、より親しみやすく説明や解説をすることができた。「保健だより」発行も含めた養護助教諭の一連の指導が、「学校評価(生徒)アンケート」において、関連項目の肯定的評価が前年度より上昇した一助になっていると考えられる。

※ 「学校評価(生徒)アンケート」における肯定的評価	H30	R1
教員は、生徒指導上のしつけやマナー教育を行っている。	58%	→ 69%
本校では、生徒をよく理解し、一人ひとりに合った生徒指導をしている。	46%	→ 62%
本校の教員は、悩みや相談事に親切に対応してくれる。	65%	→ 69%

#### 5 今後の課題

成人になるにあたり、健康で健全な生活を過ごすために、そして、正しい知識を得て自分らしい生活を享受するために、精神的に発達し、自己有用感を持つという人間的にも同時に成長するよう支援しなければならない。

### ③ 池田高等学校定時制課程

#### ○校内職員研修等について

##### 1 目的・ねらい

研修会や情報交換・共有を通して、教職員の教育的スキルや資質の向上を図り、特別な支援を必要とする生徒に対する理解ときめ細やかな支援・指導の充実に繋げる。

##### 2 内容

自尊感情・自己肯定感について正しく理解し自尊感情の育て方について考える。

##### 3 取り組み

###### ◇4月 自尊感情アンケートの選別と実施

東京都教職員研修センター紀要 「自尊感情測定尺度」を用いて調査

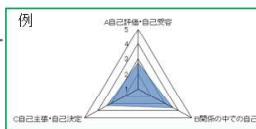
###### ◇6月 教育相談職員研修会「自尊感情・自己肯定感を高めるために」

講師：スクールカウンセラー 国見由紀 氏

#### 「自尊感情に関するアンケート」について

- 計22問
- 5段階の自己評価「あてはまる」5点～「あてはまらない」1点
- 結果
  - ・三角形のグラフで表示
  - ・養護教諭・スクールカウンセラーと分析

※アンケートと合わせて  
日頃の生徒の観察が大切



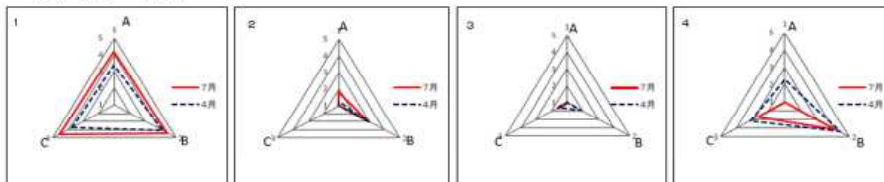
#### アンケート内容

設問	
A 自己評価 ・自己受容	私は今の自分に満足している。
	私は自分のことが好きである。
	自分はダメな人間だと思うことがある。 ※反転項目
	私は自分という存在を大切に思える。
	私は今の自分は嫌いだ。 ※反転項目
	自分には良いところがある。
B 関係の中での自己	自分は誰の役にも立っていないと思う。 ※反転項目
	私は人と同じくらい価値のある人間である。

#### アンケート結果(4月・7月比較)

項目	学校平均 4月	学校平均 7月
A 自己評価・自己受容	2.75	2.74
B 関係の中での自己	3.60	3.59
C 自己主張・自己決定	3.33	3.36

#### 個人別の結果



##### 4 成果

研修会によって自尊感情が低くなる背景と原因、自尊感情を育てるために生徒とどのように関わっていくべきかということについて理解が深まった。また自尊感情アンケートを新規に導入したことによって、その現状と変化を個別に調査できるようになり、日頃の生徒観察とあわせて生徒理解に繋がった。

### **【3】令和元年度までの成果と課題**

## **成果**

#### ○就労・ソーシャルスキル向上・学力向上等の指導方法の確立

##### 1 就労指導

- ・就業体験に関する内容，職場でのスキルに関する内容，就職活動に関する内容等の取組を実施した結果，就業意識が高まり，昼間の仕事（アルバイト等を含む）を経験した生徒の割合が85%（昨年80%）となった。

（徳島中央高校定時制課程夜間部）

- ・就職に資する図書を購入により，資格検定合格に繋がり，自己肯定感・自己有用感の向上に繋がりつつある。（徳島科学技術高校，富岡東高校）
- ・職場体験，職場見学，ビジネスマナー講座等を実施し，生徒の肯定的評価も90%を超え，働くことに対する意欲向上に繋がった。（池田高校）

##### 2 ソーシャルスキル向上指導

- ・「とくしま中央一座」で「人形劇」や「絵本の読み聞かせ」の外部講演を実施した。本年度はさらなる発展的学習として創作絵本づくりにチャレンジした。これらの共通の目的を持った協働作業が心の絆をつくり，生徒の達成感や自信へと繋がった。また，自身への探究に繋がった生徒もいた。

（徳島中央高校定時制課程昼間部）

- ・「絵本の読み聞かせ」において，ルーブリック評価を取り入れることで，積極的に授業に参加することに繋がった。（徳島中央高校定時制課程夜間部）
- ・大学生等を招いたレクダンスや日本を代表する琴と三味線の奏者による邦楽の鑑賞会を実施することにより，本物に触れるすばらしさを味わうことで，生徒の積極性が向上した。（名西高校）
- ・メンタルヘルス講演会や体力・健康増進講座等におけるグループ活動を通し，コミュニケーション能力等の育成を図ることができた。（池田高校）

##### 3 学力向上指導

- ・授業や放課後・課外時間において，教員，大学院生，支援相談員による「学習支援」を実施し，1対1に近い形で指導することにより，生徒の学び直しをスムーズかつ効果的に支援することができた。（徳島中央高校定時制課程夜間部）
- ・学生ボランティアによる学習支援で，対人関係等のソーシャルスキルが少しずつ向上してきた。義務教育内容を学び直す学校設定科目の開設で生徒は分かる喜びを体験し，学習意欲と自己肯定感の向上に繋がった。出張スクーリングは通学の負担軽減に繋がった。（徳島中央高校通信制課程）
- ・資格取得，学力向上に向けた図書を購入し，学習意欲の向上に役立った。（鳴門高校，名西高校，富岡東高校）

## ○特別な支援を必要とする生徒への指導方法の確立

### 1 支援相談員の活用

特に発達障害等何らかの支援を必要とする生徒に対し、支援相談員の指導・助言を受け、教職員とともに教科学習、総合的な学習の時間、特別活動、放課後支援等を総合的に組み合わせた指導を行った。これまでと同様に支援が就職に繋がった例、資格取得への意欲向上に繋がった例等が認められた。特別な支援を必要とする生徒に対し、HR担任、教科担任、管理職、スクールカウンセラーを交えたケース会議を開き、各授業での様子を確認するとともに、今後の支援について共通理解を図ることにより、一貫した指導を行うことができた。

### 2 特別な支援を必要とする生徒に対する指導

- ・特に発達障害等何らかの支援を必要とする生徒に対し、HR担任、教科担任によるケース会議を開催した。事案に応じて県立特別支援学校の巡回相談員に相談し、生徒の実態に即した支援方法の検討をした。本年度は大学准教授に来校いただき「専門家によるコンサルテーション」を実施した。これらの取組により、生徒の行動が積極的な方向に変容するなど望ましい行動が増えた。

(徳島中央高校定時制課程昼間部)

- ・規則正しい生活や食生活ができるよう、食育クイズ&ワークシート集等の図書を購入し、生徒の保健指導や「保健だより」に活用することで、生徒の意識が向上した。(富岡東高校)
- ・研修会や自尊感情アンケートによって職員の意識を共有し、生徒理解に繋がった。

(池田高校)

## ○支援・相談体制の充実

教頭による連絡会と委員による検討会議で役割を分担し、情報共有と事例検討、事業執行に係る指導評価を行った。連絡会は教頭会を活用することで5回開催し、緊密な情報交換を図ることができた。検討会議では、委員から具体的な指導助言をいただき、計画検討・見直し及び実施評価を行うことができた。

## 課題

各学校での指導は、アンケート結果やルーブリック評価などにより、成果が可視化できしており、評価方法がよくなったが、「どういう指導をするとどうよくなるのか」などを検証する必要がある。また、指導方法を他の学校においても実施し、分析・検証することも必要であると考えられる。